

登別市の公共交通をより良くするための アンケート調査結果

◆ 調査内容

目的 : 登別市民の日ごろの交通行動や公共交通に対する要望・課題を把握し、今後の生活交通のあり方を検討するため、アンケート調査を実施

調査対象 : 登別市にお住まいの16歳以上の方から無作為抽出

配布日 : 令和2年1月31日（金）

調査方法 : 郵送配布・回収

配布数 : 2,000世帯（1世帯当たり2票を配布）

回収数 : 800通（1,244票） 回収率 40.0%

◆ 調査項目

問1 個人属性について

年齢、性別、職業、同居家族、居住地、自動車免許と自動車の保有状況、踏み間違い防止機能の設置状況、免許返納意向、自動車の運転意向、自動車の運転が困難になった場合の移動手段、普段の外出頻度、バスの利用頻度、タクシーの利用頻度、JRの利用頻度

問2 日頃の交通手段について

2-1 買い物 2-2 通院

頻度、時間帯、主な行先、主な移動手段

2-3 通勤・通学

主な交通手段、公共交通の利用意向

2-4 私用

私用の頻度、私用で外出する際に困っていること、主な私用先、主な交通手段

問3 登別市の路線バスについて

登別市内のバス路線や停留所の認知度、現状の満足度

問4 今後の登別市のバス交通について

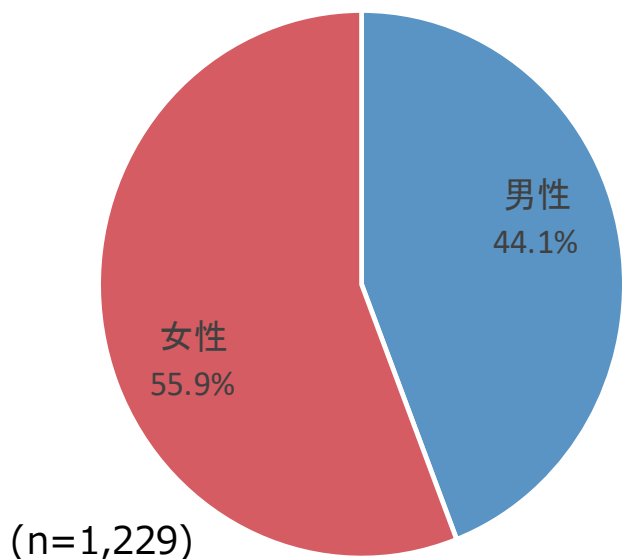
登別市の今後のバス路線について、利用促進の方法について

問5 民族共生象徴空間（ウポポイ）について

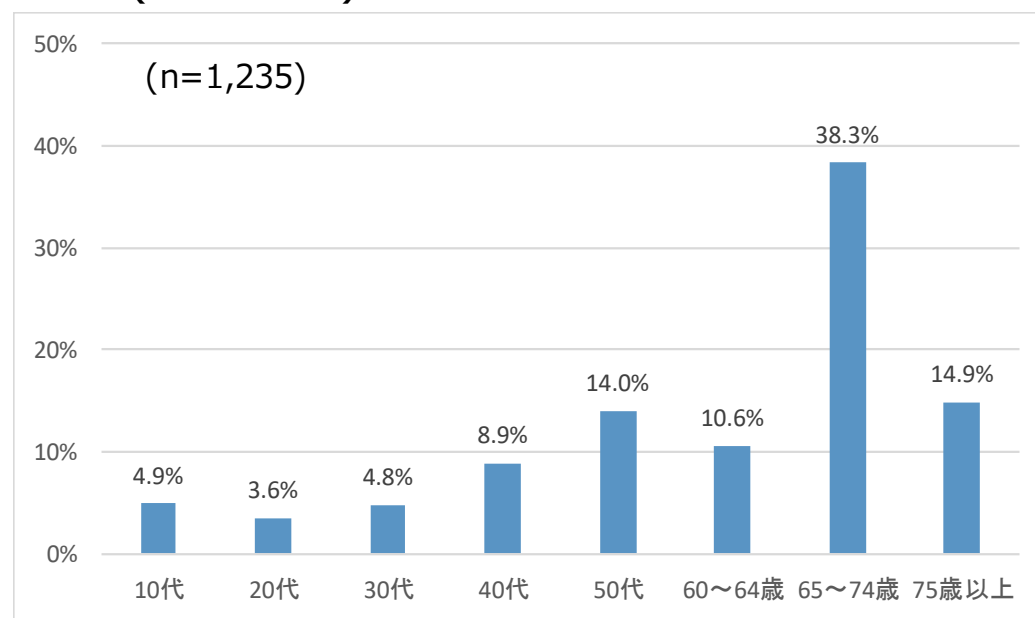
認知度、来訪予定、交通手段

- 回答者の性別は「男性」が4割強、「女性」が約6割となっている。
- 年齢については、65～74歳が最も多く約4割であり、高齢者からの回答で約6割である。

【性別(単一回答)】



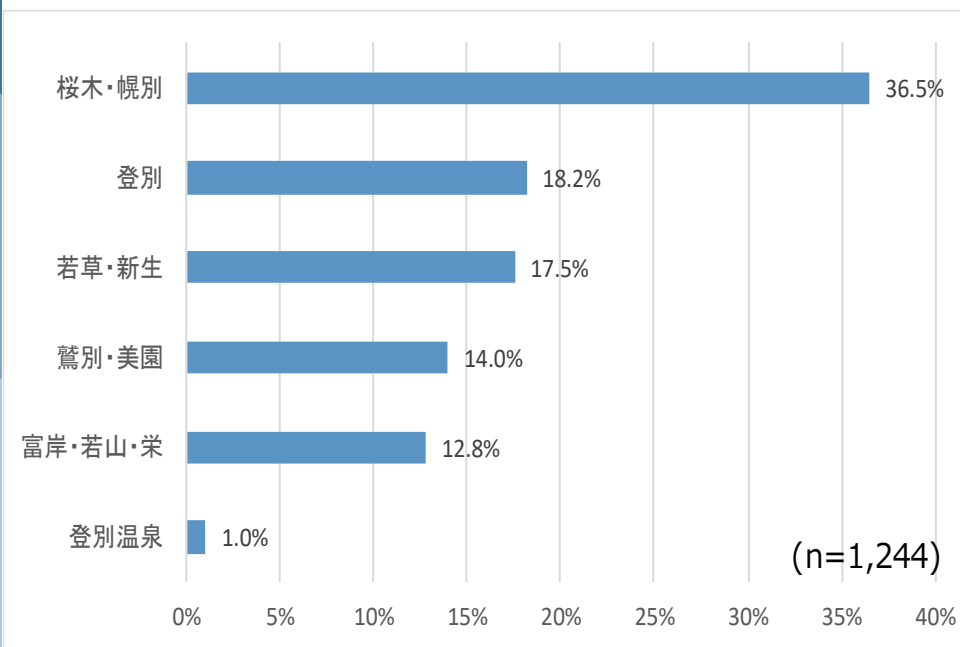
【年齢(単一回答)】



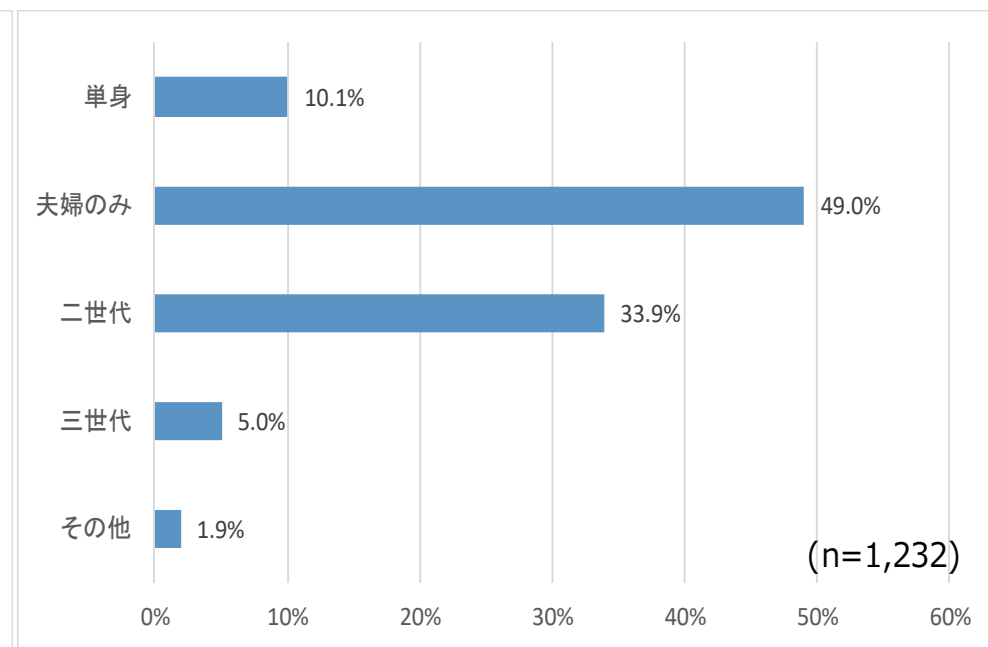
図のタイトルに付記している「単一回答」は一つだけ回答していることを示しています。一方、「複数回答可」は複数選択することが可能な項目を示しています。また、各設問の「n=●●」は、項目ごとの無回答や不明な回答を除く、有効回答数を示しています。また、グラフの合計は表示桁数（小数点一桁）の関係上、合計が100%にならない場合がある。

- 回答者の居住地は桜木・幌別が4割、次いで登別が約2割となっている。
- 世帯構成については、夫婦のみが過半数を占めており、単身世帯は1割となっている。

【居住地(単一回答)】

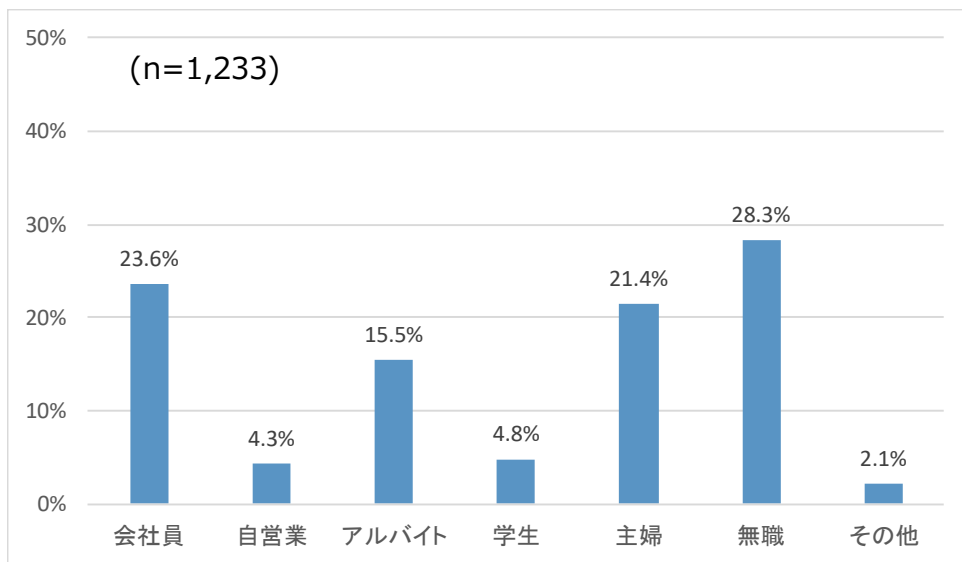


【世帯構成 (単一回答)】

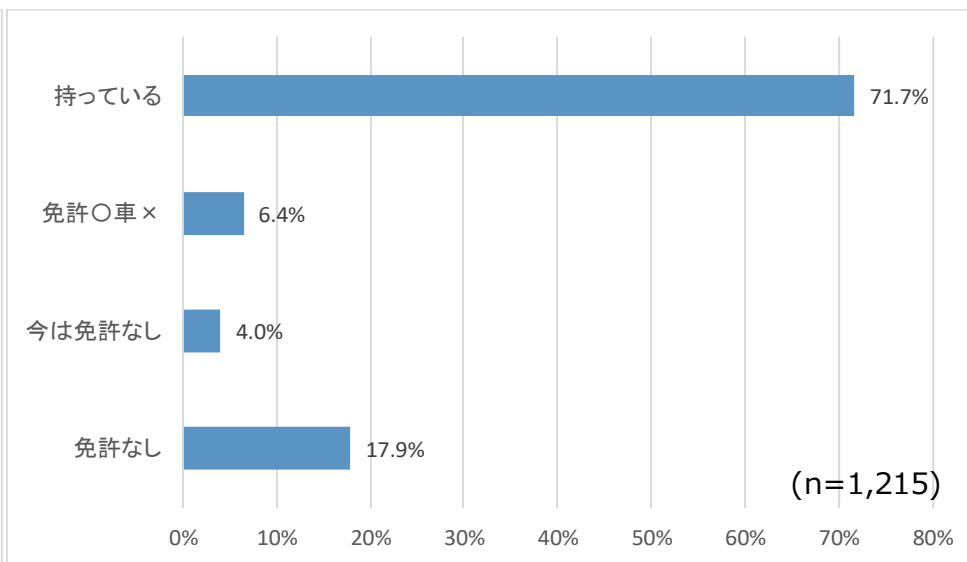


- 回答者の職業は「無職」が約3割、次いで「会社員」が2割強となっている。
- 免許と自動車をいずれも保有している割合が7割強となっている一方で、現状で免許を持っていない割合が2割強となっている。

【職業(単一回答)】

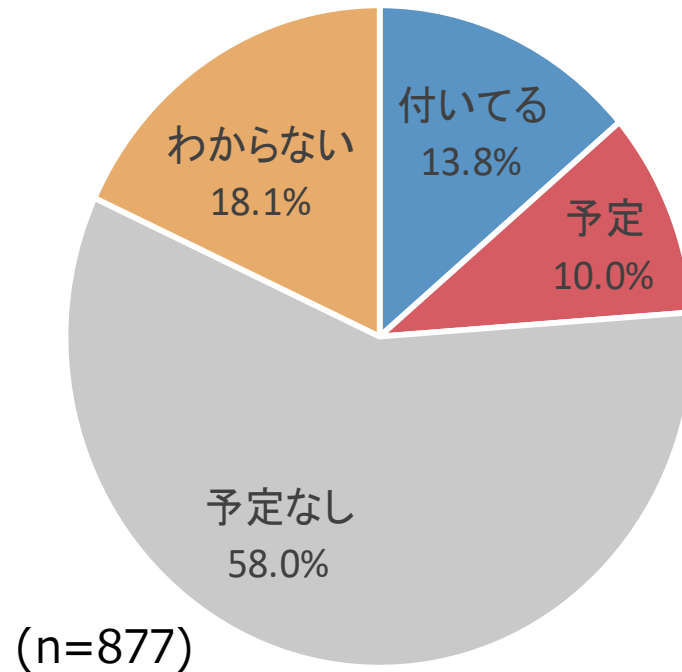


【運転免許と自動車の保有状況(単一回答)】



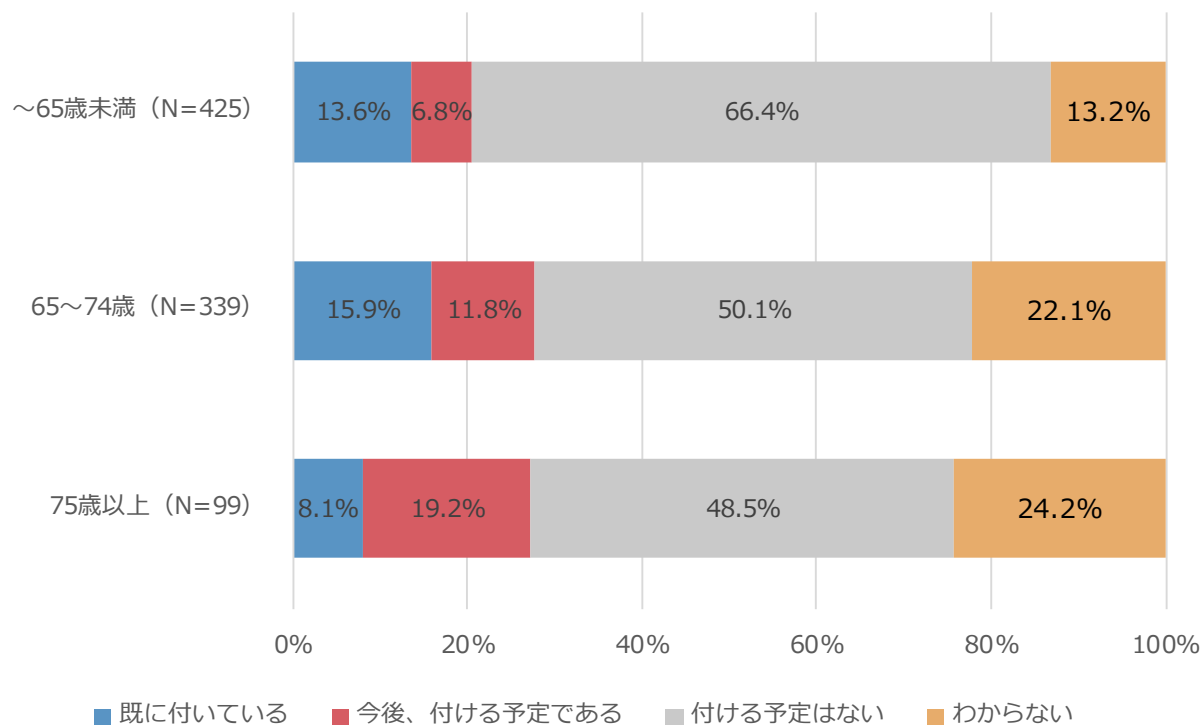
- 自動車のブレーキ踏み間違い防止機能の設置状況については、13.8%が「付いてる」と回答している。
- 一方、「予定なし」の回答が過半数を占めている状況である。

【自動車ブレーキ踏み間違い防止機能設置の有無(単一回答)】



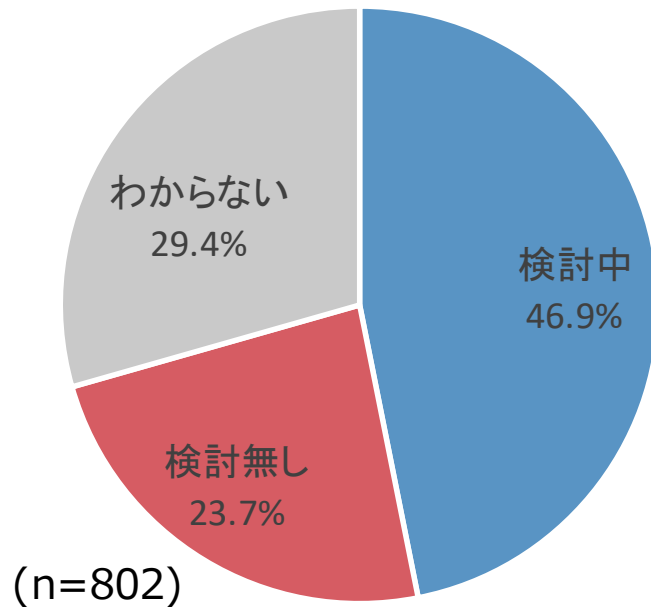
- 年代別で比較すると、65歳以上の高齢者が前向きな考えを示しており、「既に付いている」・「今後予定である」を合わせると約3割となっている。一方で「わからない」についても2割強となっており、機能に係る情報提供等が必要と考えられる。

【年代別自動ブレーキ踏み間違い防止機能設置の有無(単一回答)】

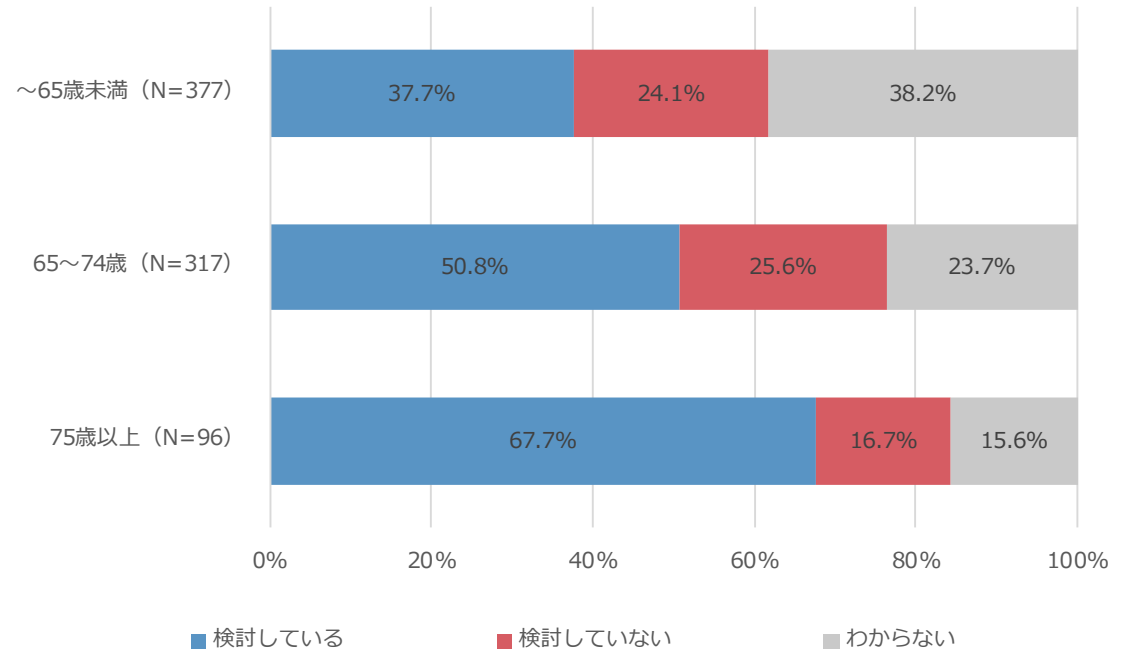


- 免許返納の意向は約半数が「検討中」としている。
- 年代別で見ると年齢が高くなるに従って、免許返納意向が高くなっており、75歳以上では約7割が「検討中」としている。

【免許返納意向(単一回答)】

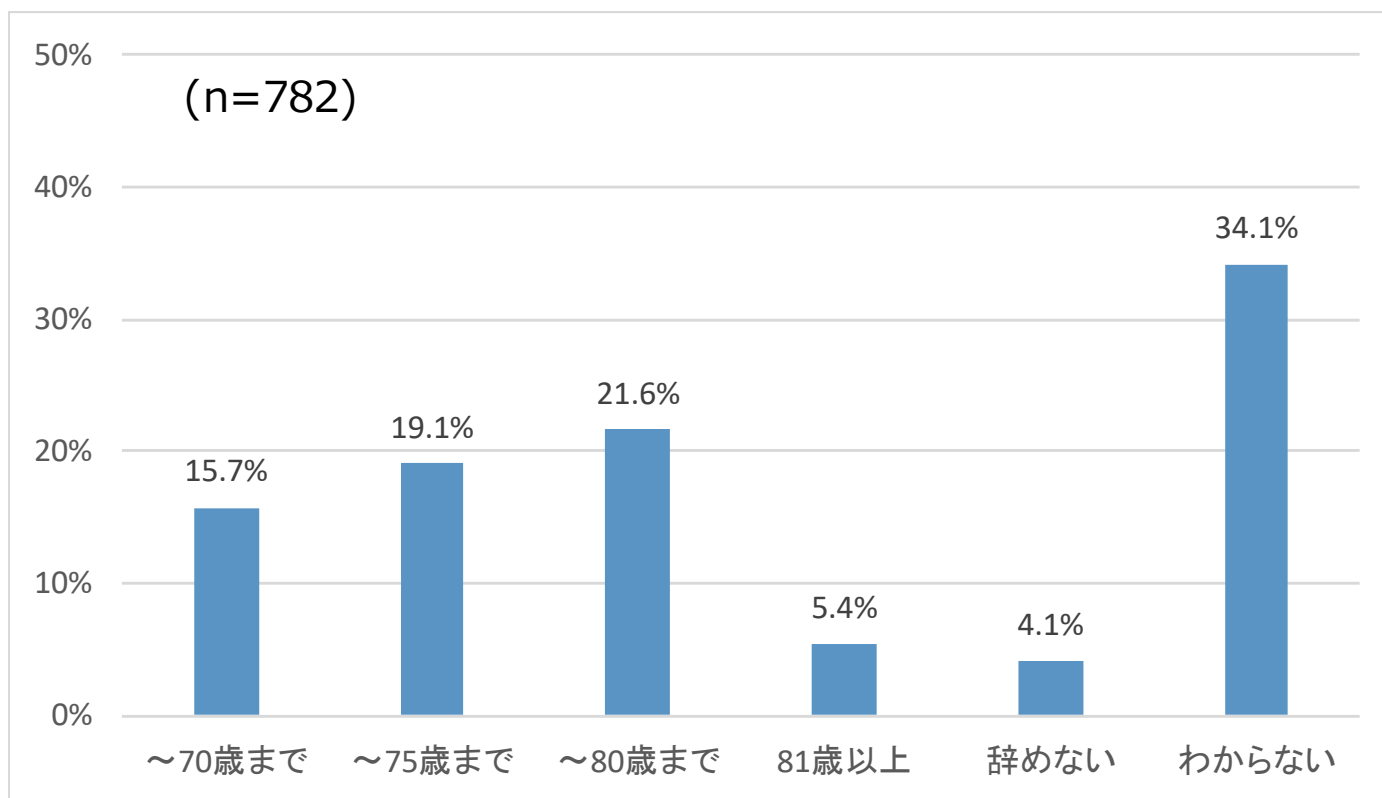


【年代別免許返納意向(単一回答)】



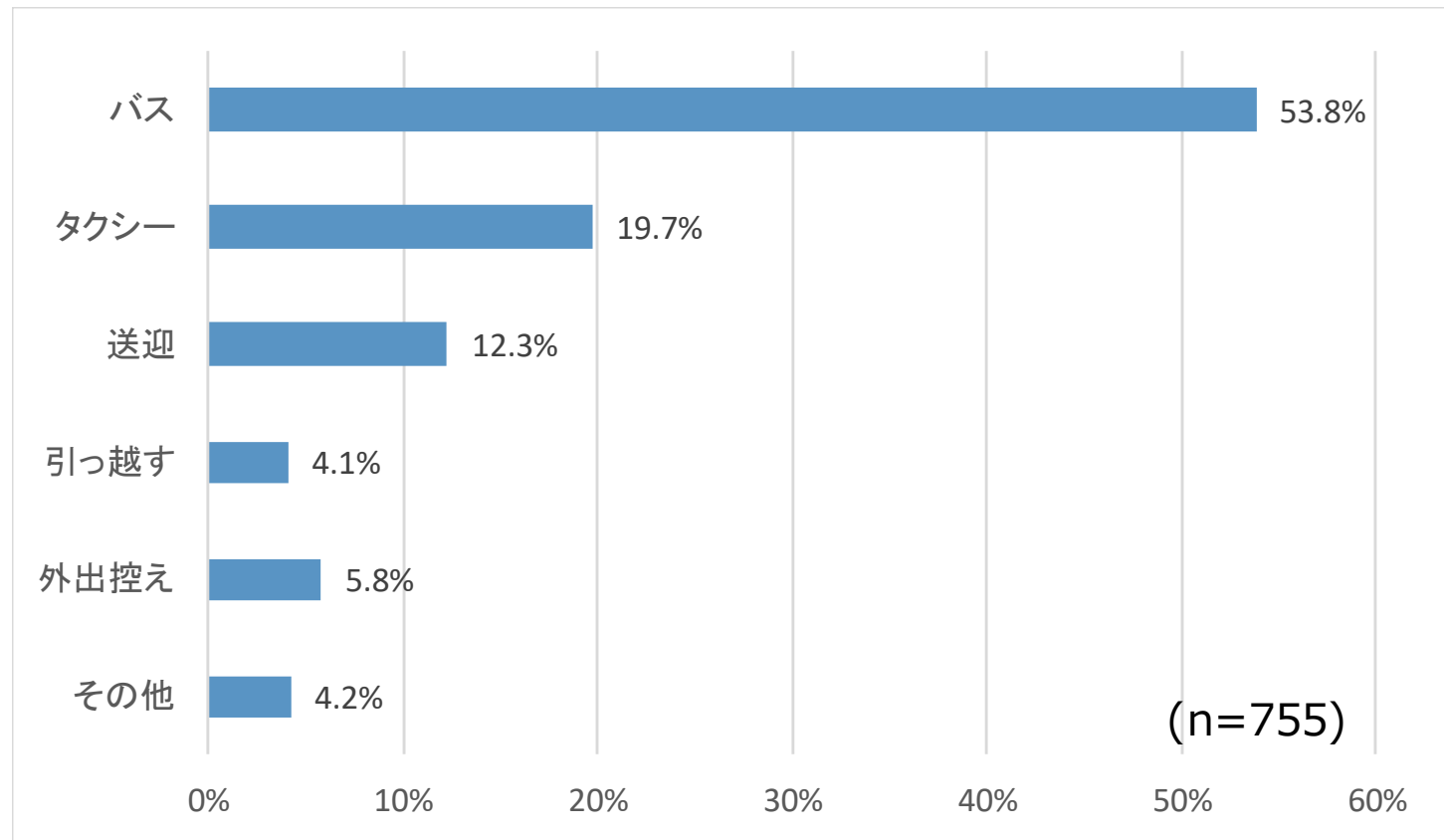
- 自動車の運転意向は、「～80歳まで」が2割強と最も高くなっており、高齢者による運転が今後も継続されることが想定される。

【自動車の運転意向(単一回答)】



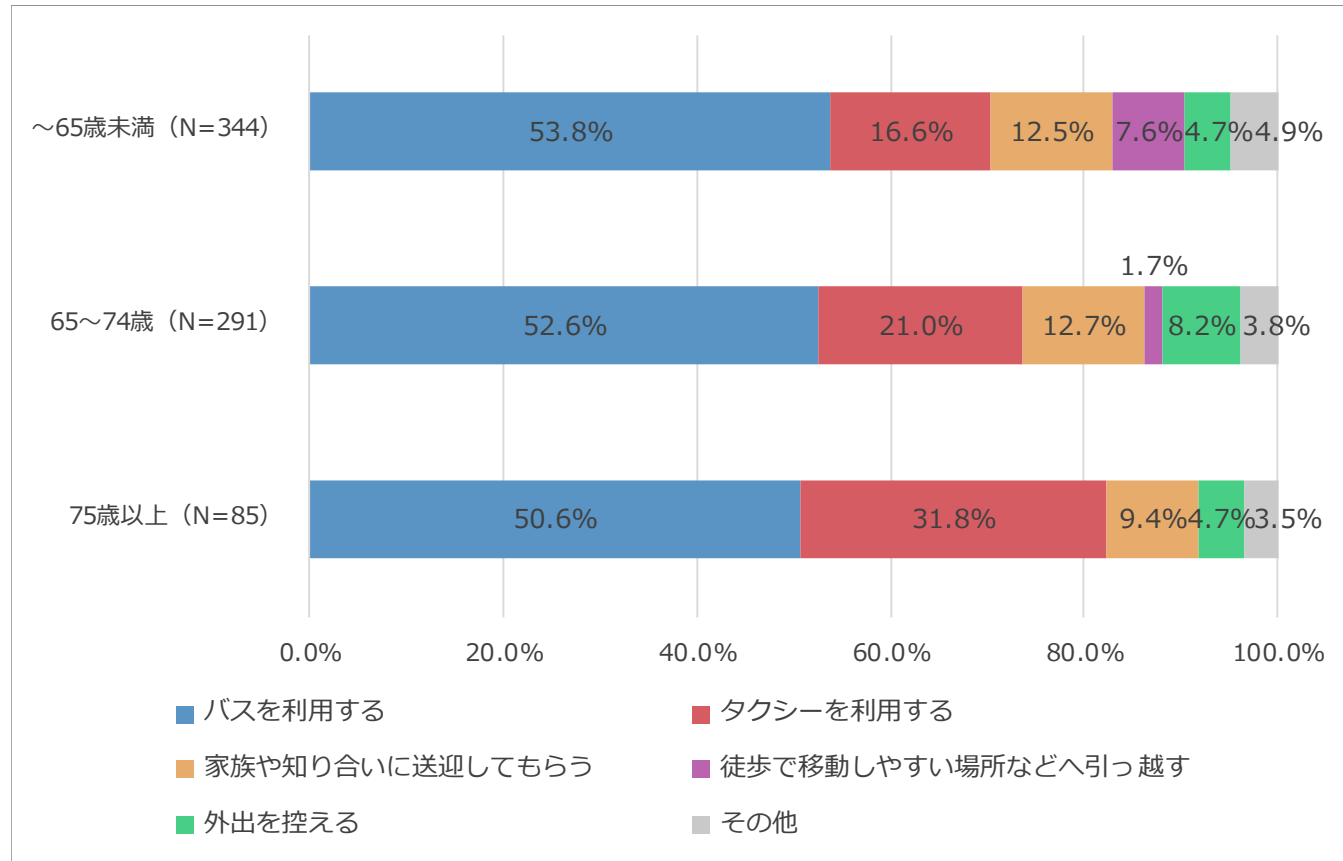
- 将来自動車の運転が困難になった場合の移動手段は、「バスを利用する」が過半数を占めている。
- 引っ越すや外出を控えるなど、移動パターンを変える回答は低くなっている。

【自動車の運転が困難になった場合の移動手段(単一回答)】



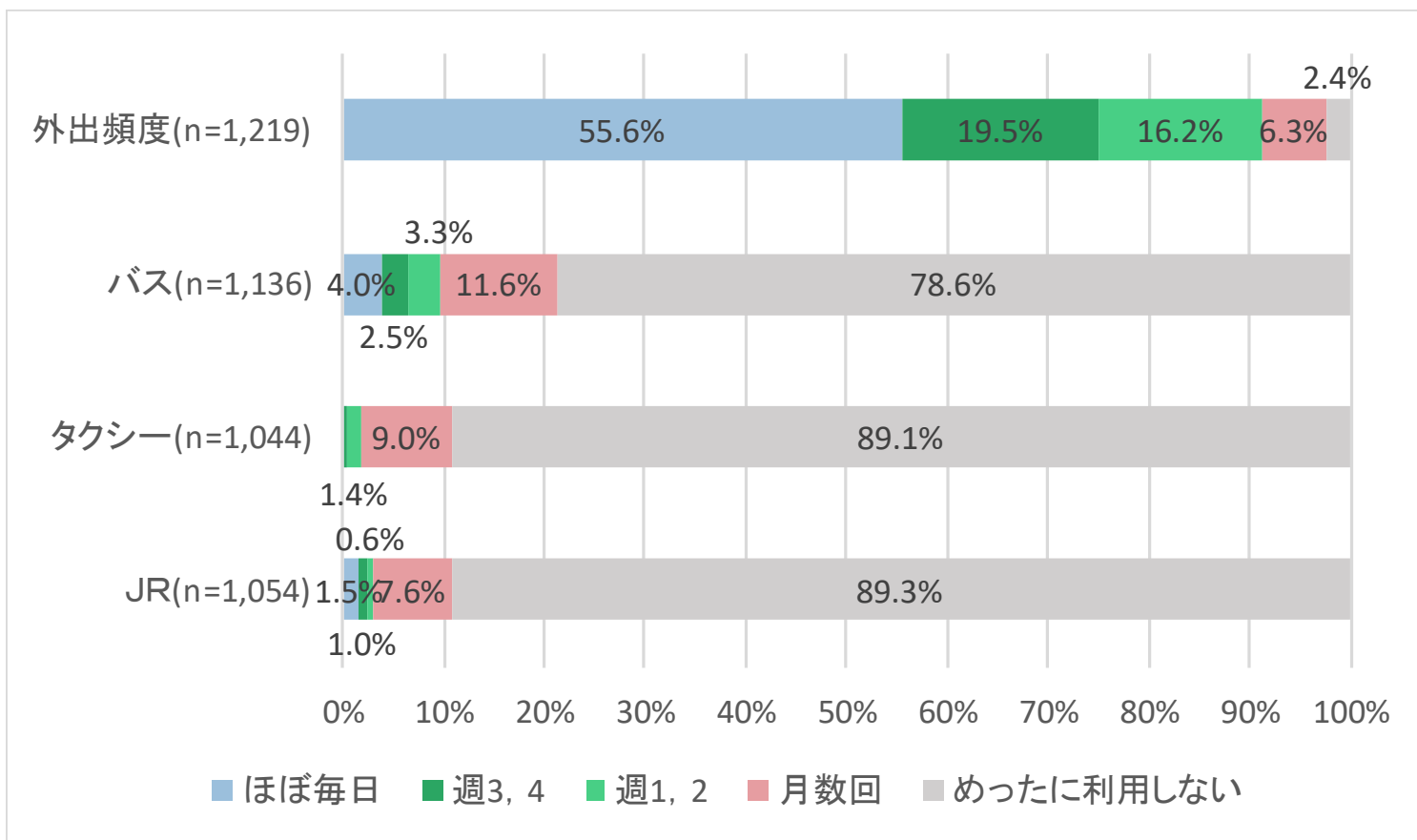
●年代別には年齢が高くなるに従い「タクシーを利用する」割合が高くなり、75歳以上では3割強となっている。

【年代別自動車の運転が困難になった場合の移動手段(単一回答)】



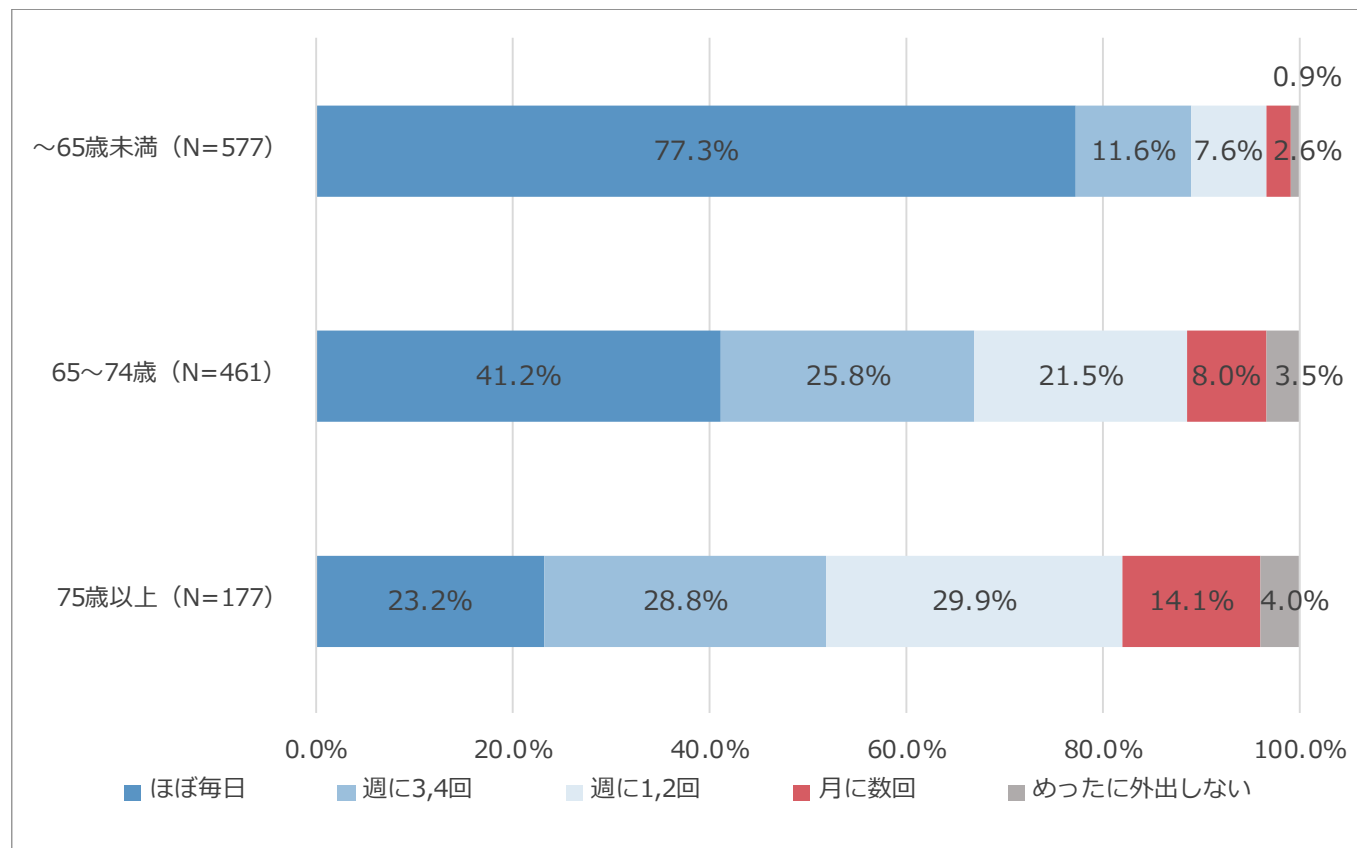
- 普段の外出頻度は「ほぼ毎日」が約6割となっており、週1回以上で9割強である。普段のバス・タクシー・JRの利用頻度は「めったに利用しない」がいずれも9割強を占めており、公共交通は利用されていない。

【普段の外出頻度、バス・タクシー・JRの利用頻度(単一回答)】



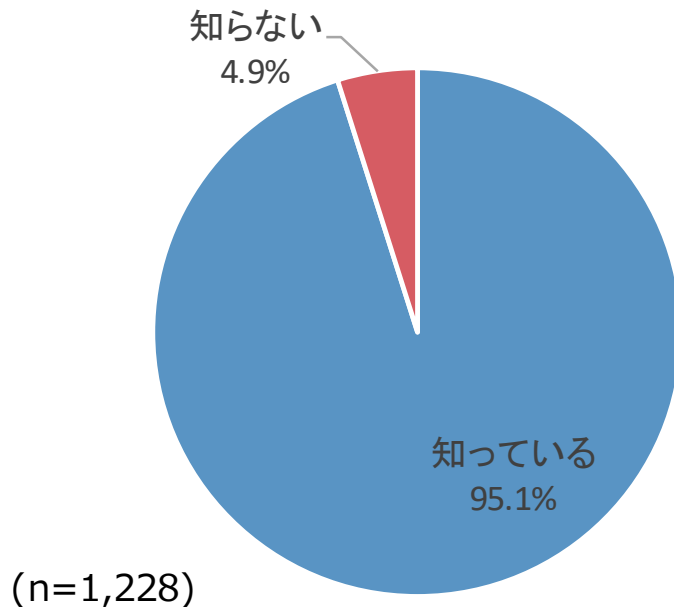
●年代別の普段の外出頻度では、年齢が高くなるに従い頻度が低下している。

【年代別普段の外出頻度(単一回答)】

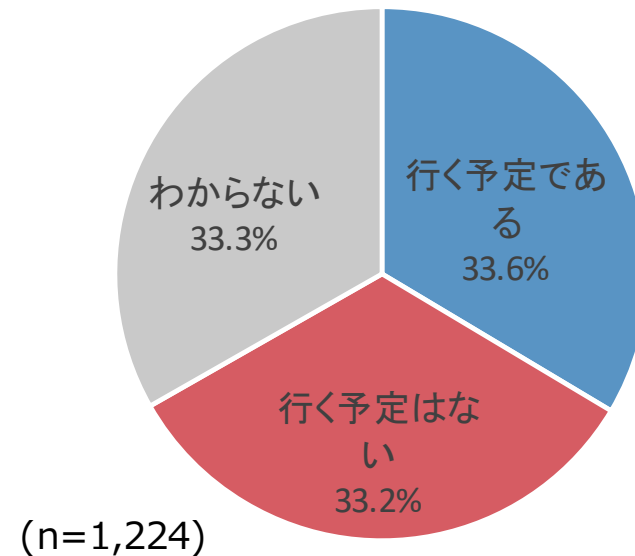


- 登別市民のウポポイ（民族共生象徴空間）に対する認知度は非常に高く、95.1%が知っていると回答している。
- 訪問意向では「行く予定である」は4割弱に留まっており、「行く予定はない」「わからない」についても同程度となっており、今後の継続的な利用促進が重要である。

【認知度(単一回答)】

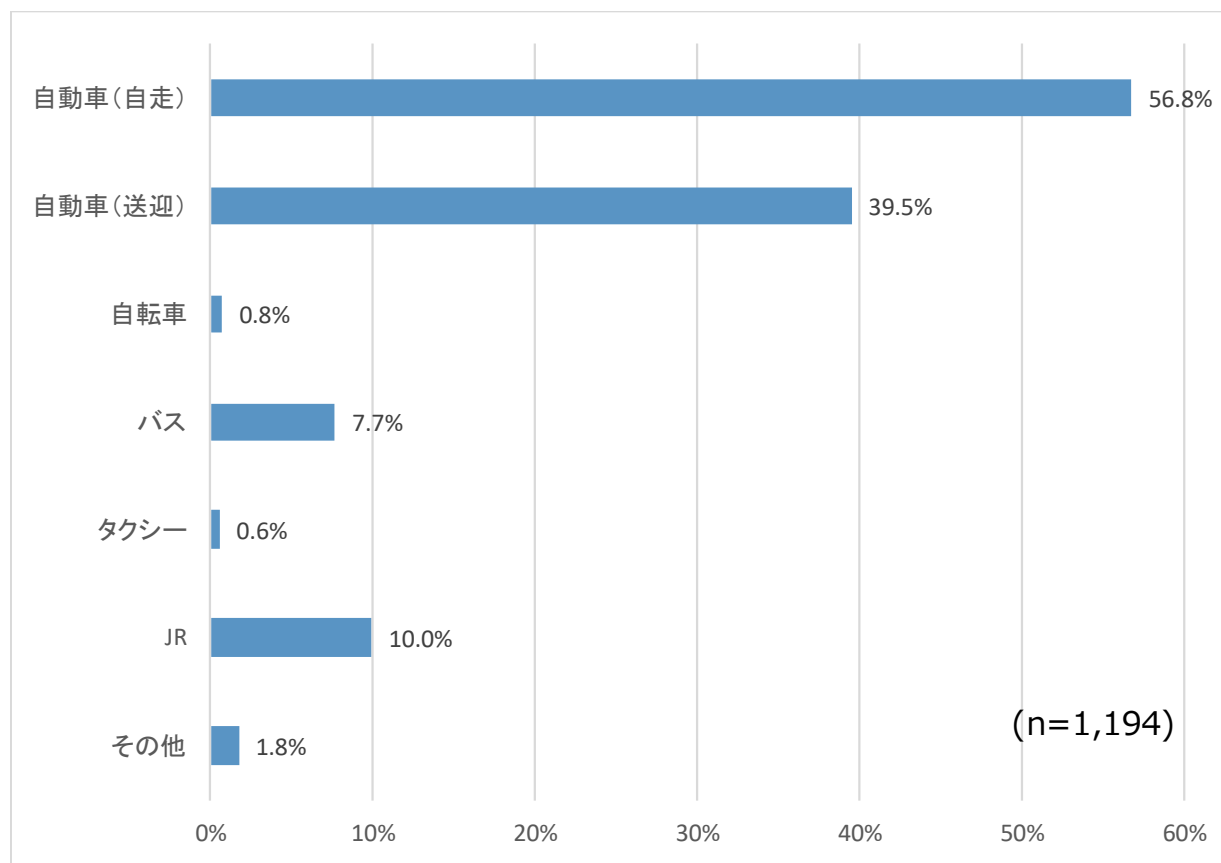


【訪問意向（複数回答）】



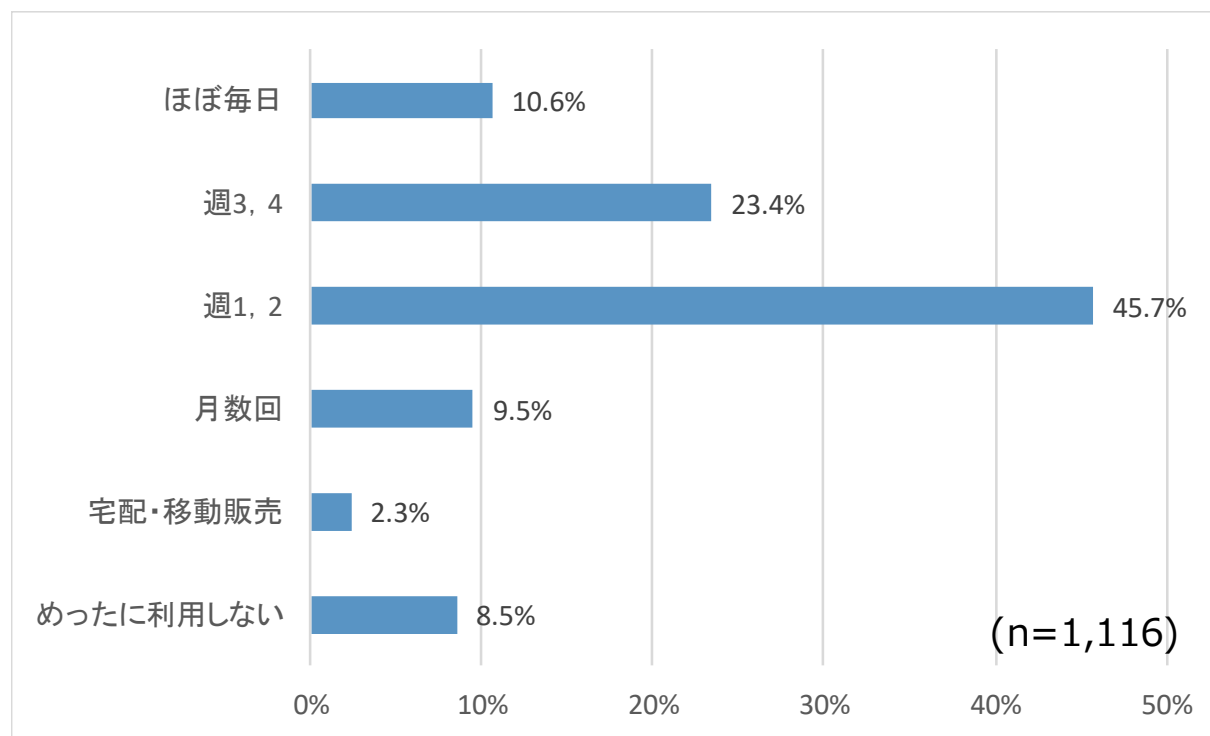
- ウポポイ（民族共生象徴空間）に行く場合の移動手段としては、自動車が大半となっている。一方でバスやJRでのアクセス意向も10%程度回答していることから、アクセス交通の整備が必要と考えられる。

【ウポポイ（民族共生象徴空間）への移動手段(複数回答)】



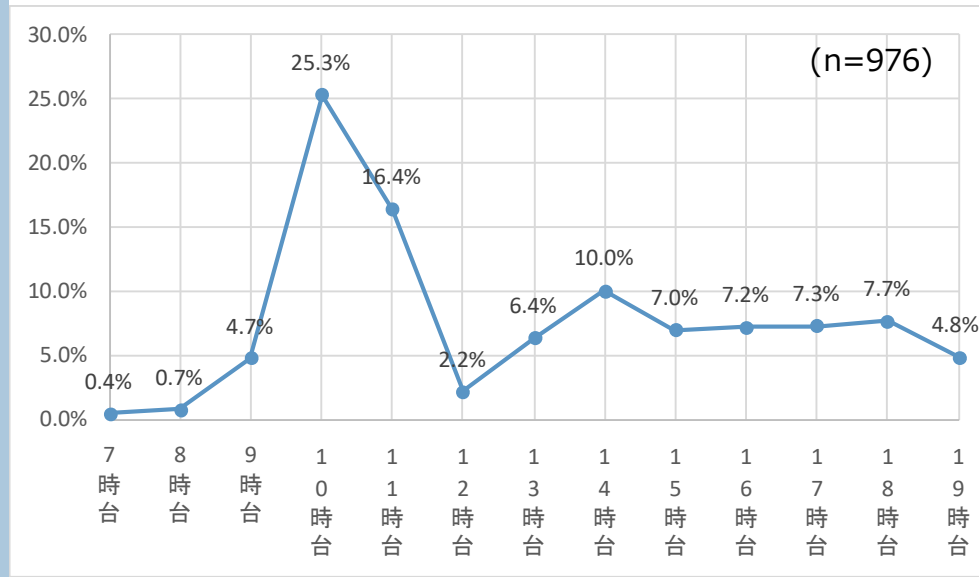
- 買い物に行く頻度は「週に1~2回」が約5割、「週に3~4回」が2割強となっている。週1回以上で全体の約8割となっている。

【買い物に行く頻度(単一回答)】

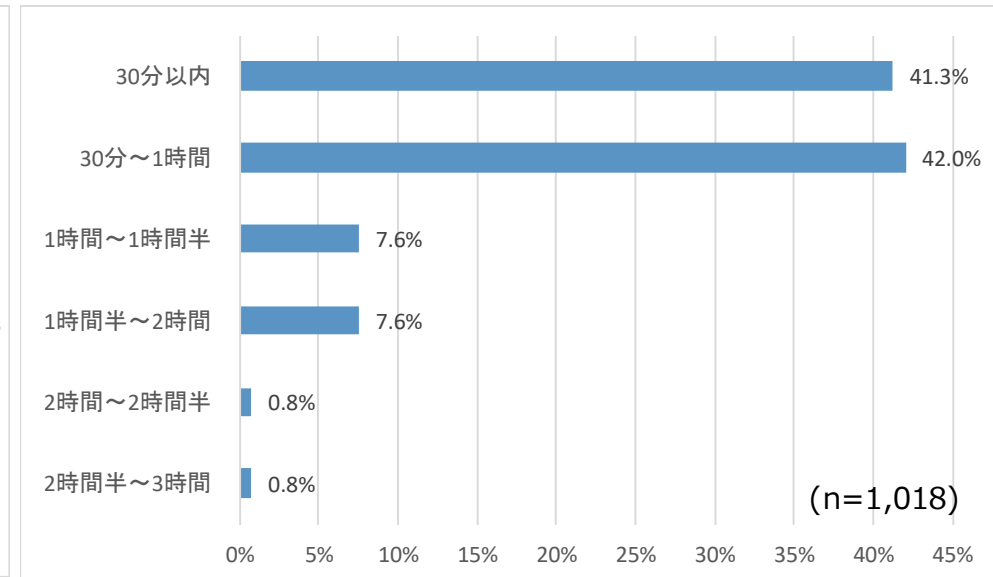


- 買い物先に到着する時間帯は「10時台」、次いで「11時台」の割合が高くなっている。
- 買い物先での滞在時間は「30分～1時間」、次いで「30分以内」の割合が高くなっている。

【買い物先に到着する時間帯(自由記述)】



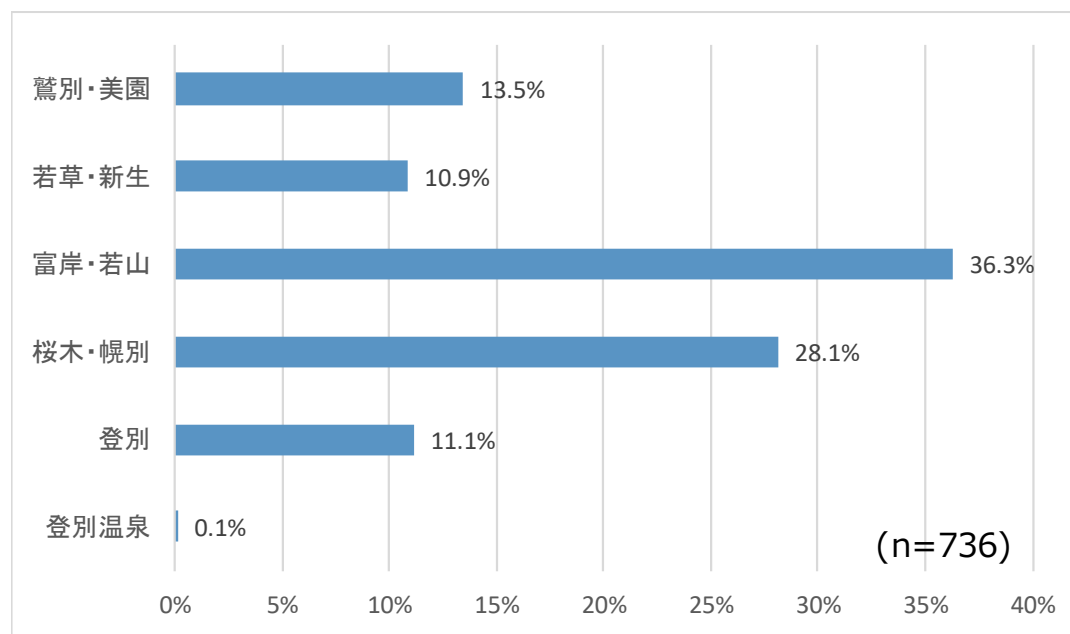
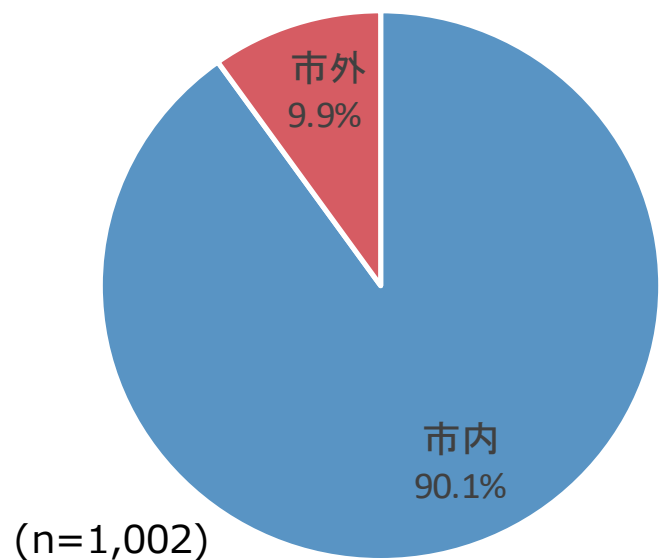
【買い物先での滞在時間(自由記述)】



図のタイトルに付記している自由記述は、任意の回答を集計したものを示しています。

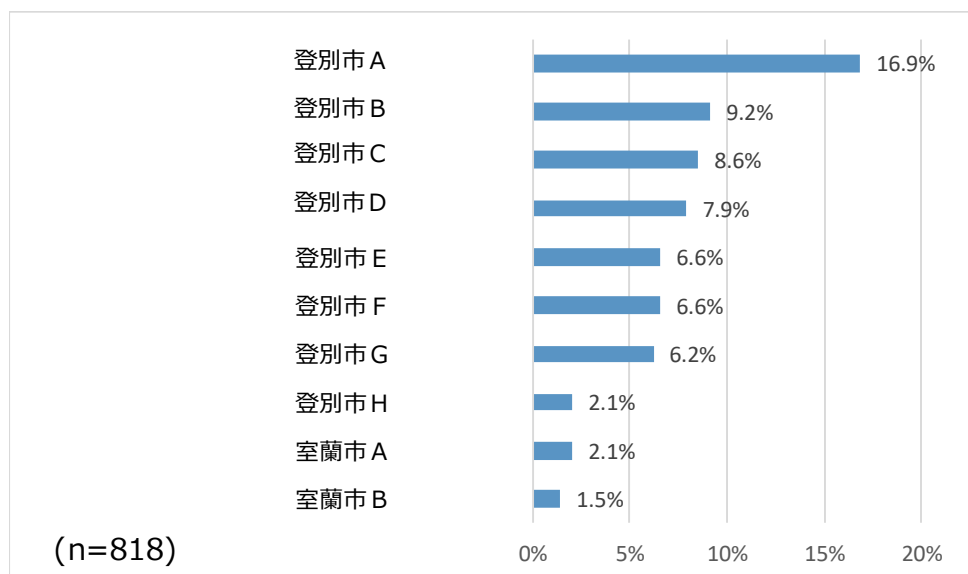
- 買い物でよく利用する場所は「登別市内」が約9割を占めている。
- 登別市内では「富岸・若山地区」での買い物割合が最も高く、約4割となっている。

【買い物でよく利用する場所(単一回答)】 【買い物する地区（登別市内）】

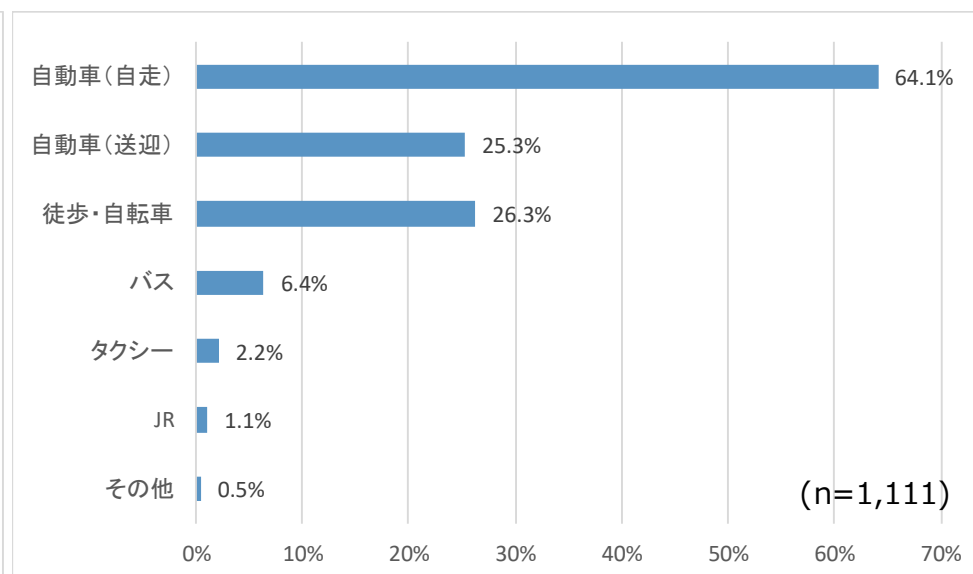


- 登別市内にある店舗を利用している割合が高くなっている。
- 移動手段は「自動車」の割合が高い一方、「徒歩・自転車」の割合も約3割と高い。

【買い物でよく利用する場所(自由記述)】

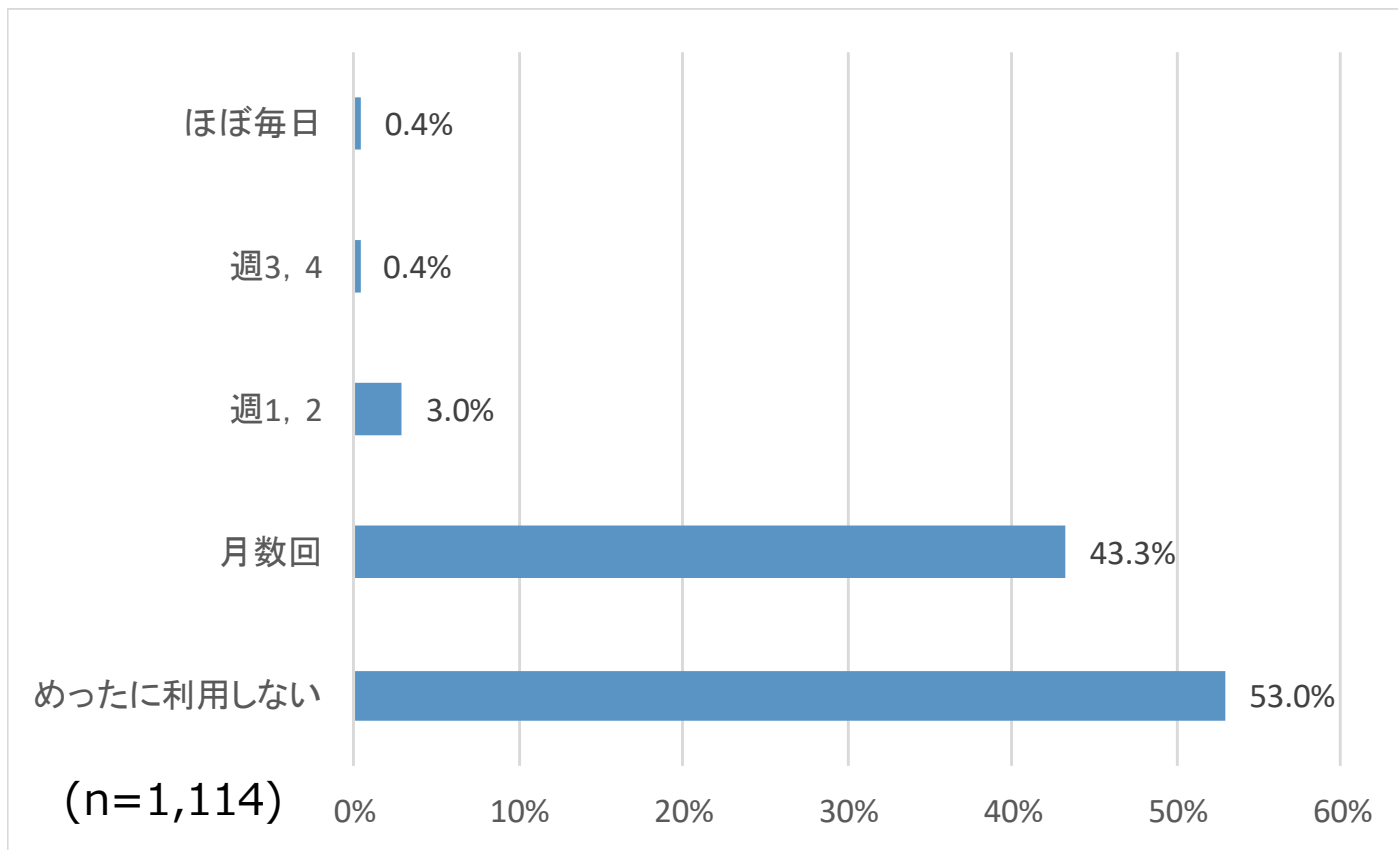


【買い物時の移動手段（複数回答）】



- 病院に行く回数は「月に数回」が4割強、「めったに行かない」が5割強となっており、通院行動はあまり行われていない結果となっている。

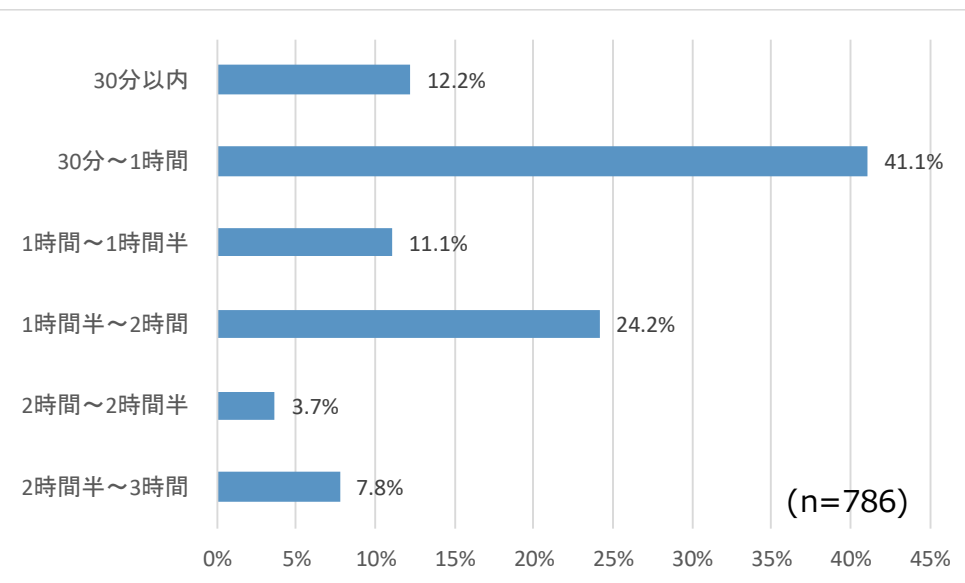
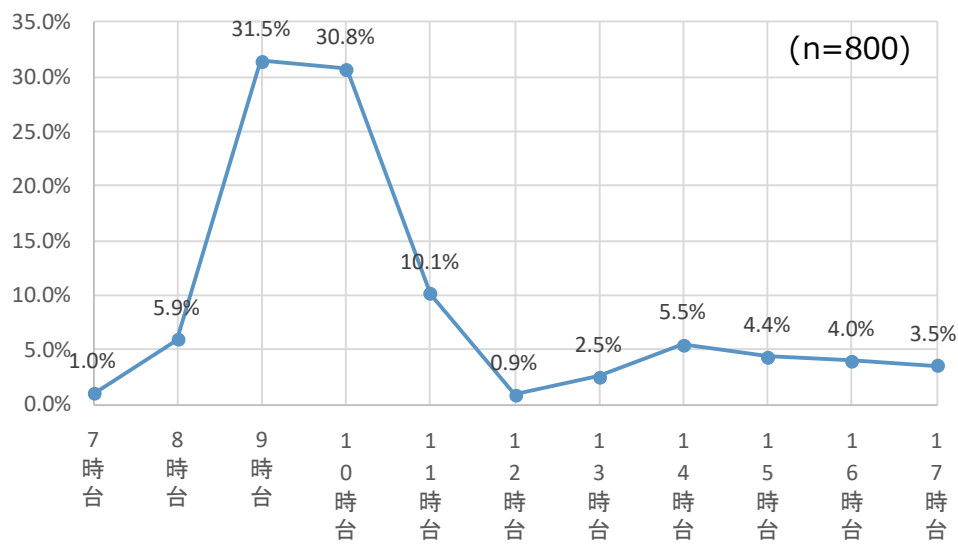
【病院に行く回数(単一回答)】



- 病院に到着する時間帯は「9時台」、次いで「10時台」の割合が高くなっている。
- 病院での滞在時間は「30分～1時間」、次いで「1時間半～2時間」の割合が高くなっている。

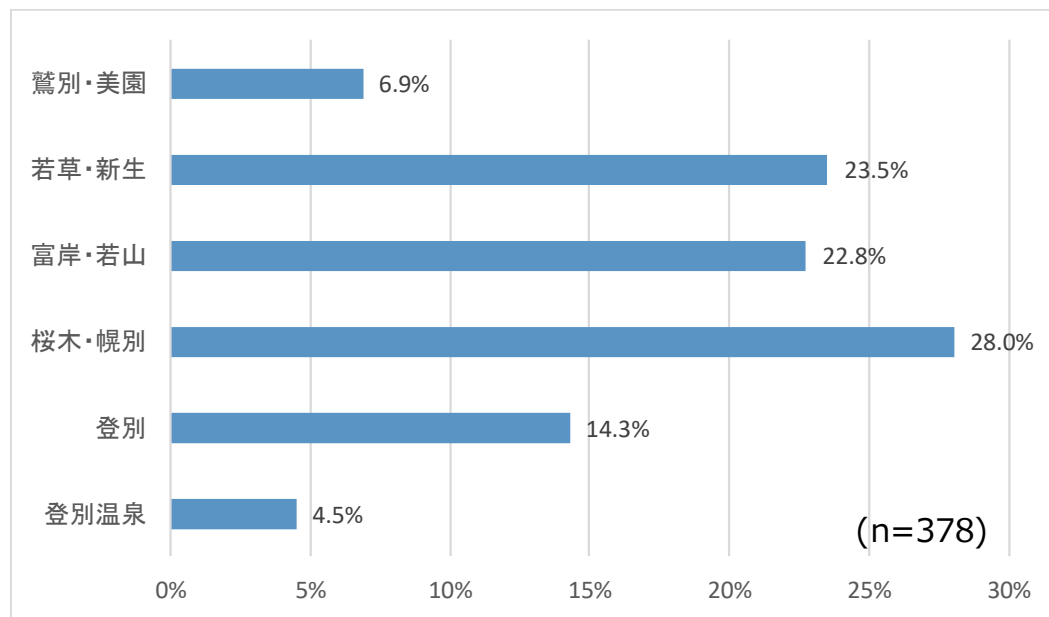
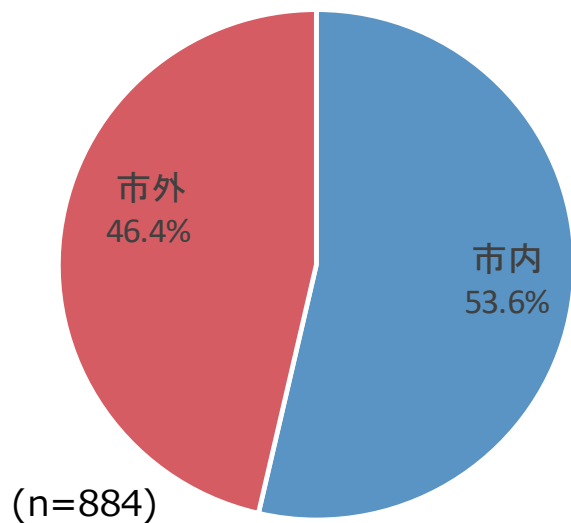
【病院に到着する時間帯(自由記述)】

【病院での滞在時間(自由記述)】



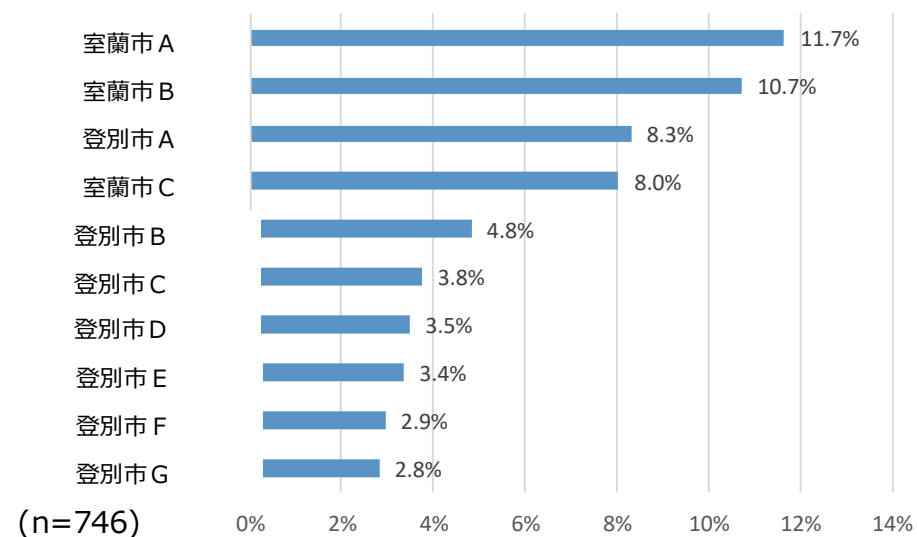
- よく利用する病院の場所は「登別市内」が過半数を占めている。
- 登別市内の行先は「桜木・幌別地区」での通院割合が最も高く、約3割となっている。

【よく利用する病院の場所(単一回答)】 【登別市内の通院場所(単一回答)】

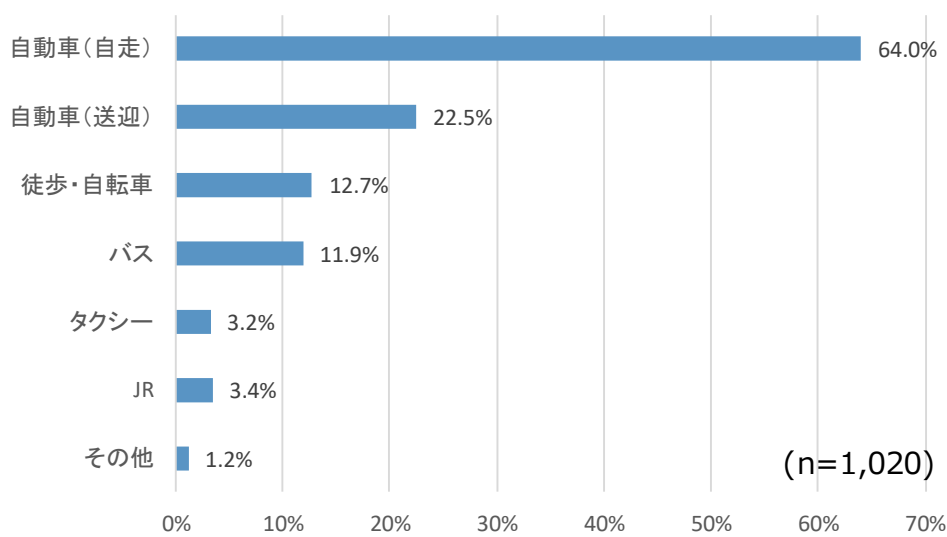


- よく利用されている病院は室蘭市内が上位となっている。
- 移動手段は「自動車」の割合が高く、特に自分で運転しての通院が6割強となっている。

【通院でよく利用する場所(自由記述)】

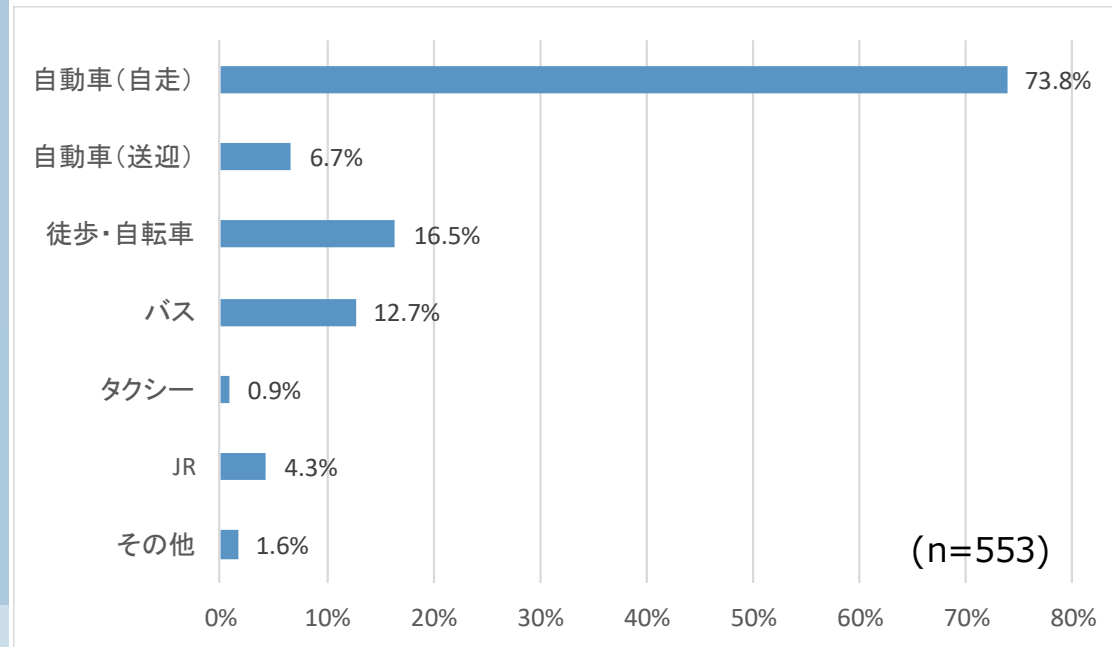


【通院時の移動手段（複数回答）】

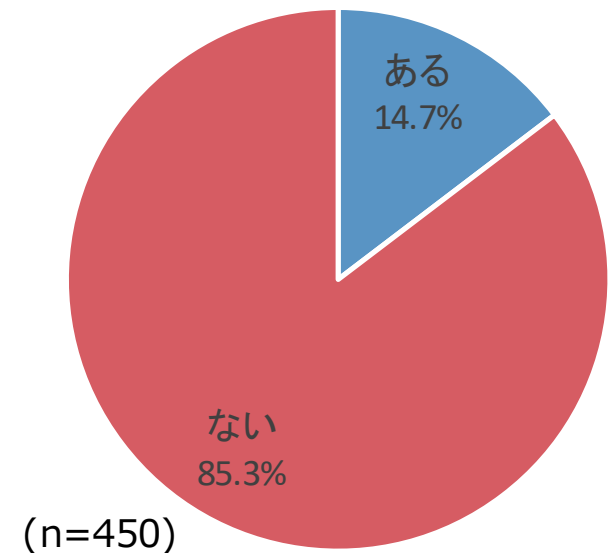


- 通勤・通学の移動手段は7割強が自動車（自走）となっており、公共交通による移動はバス・JRを合わせて約2割となっている。
- 自動車・徒歩・自転車による通勤・通学者の公共交通への転換の可能性については、8割強が「検討したことがない」と回答している。

【通勤・通学の交通手段(複数回答)】

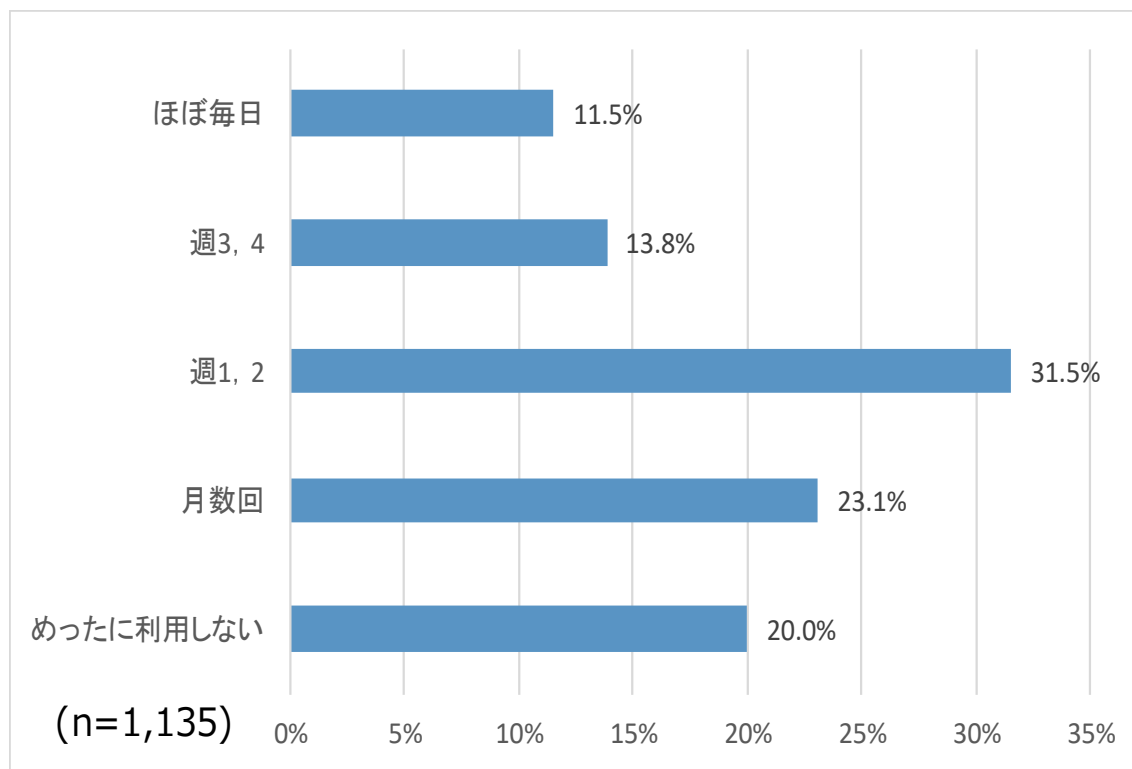


【公共交通転換意向(単一回答)】



- 私用の外出頻度は「週に1~2回」が3割強、「月に数回」が2割強となっている。

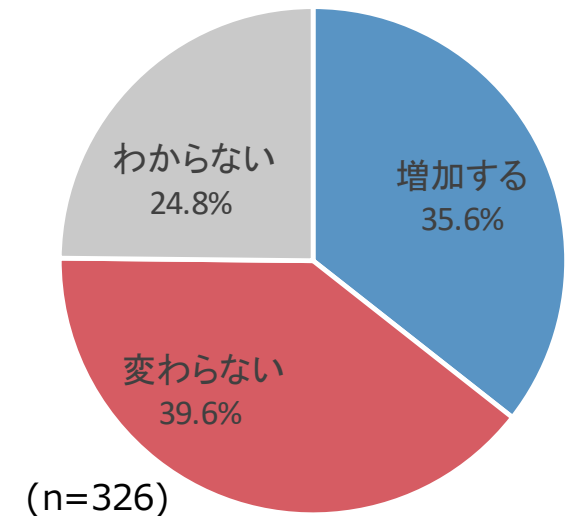
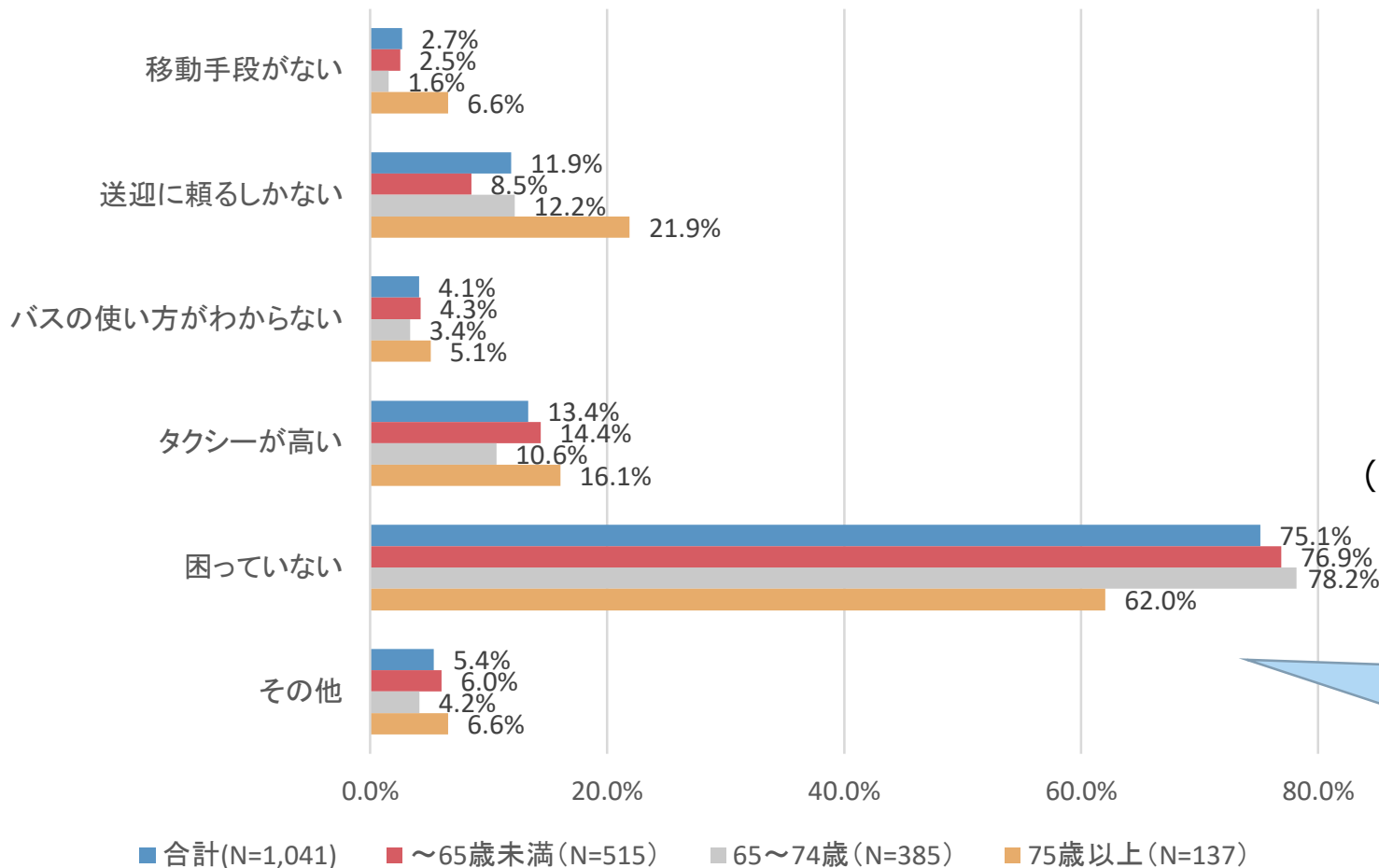
【私用の外出頻度(単一回答)】



- 外出時に困っていることへの回答として「困っていない」が7割強となっている。
- 困っていることが解消された場合の外出頻度として、4割弱が「増加する」と回答しているものの、「変わらない」「わからない」が約4割と最も高い割合である。

【外出時に困っていること(複数回答)】

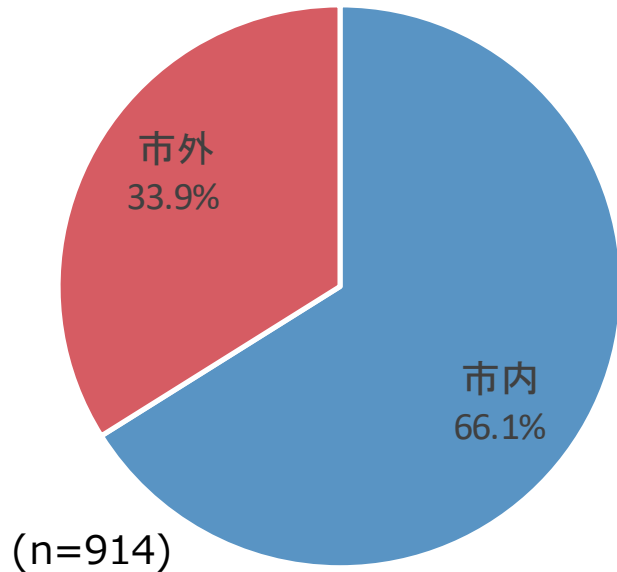
【困っていることが解消された場合の外出頻度の変化(単一回答)】



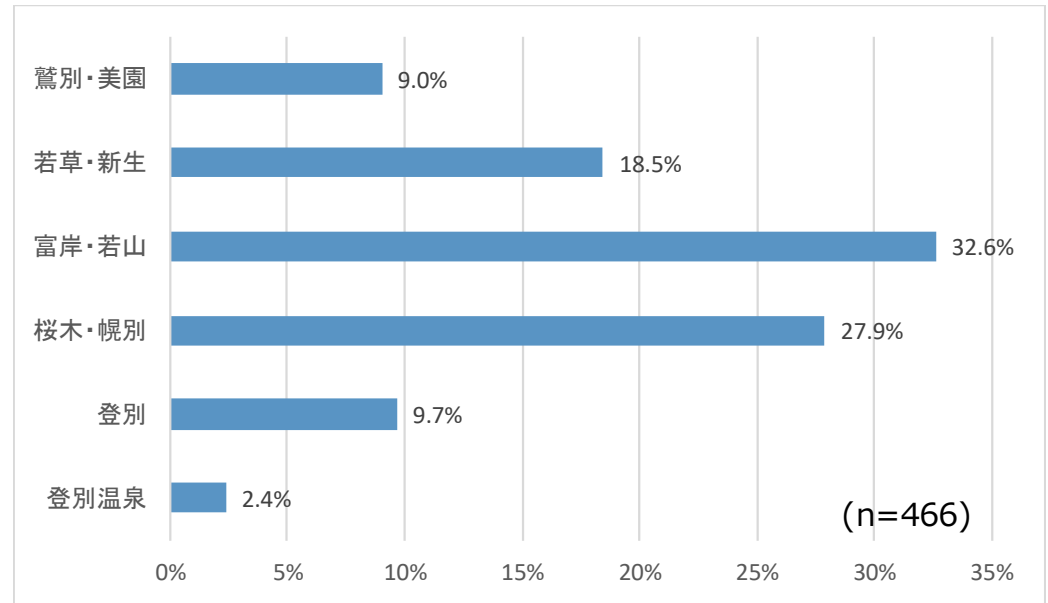
75歳以上では困っていない割合が減り、「送迎に頼るしかない」が課題

- 私用で利用する場所は市内が約7割となっている。
- 市内で利用する地区としては、富岸・若山地区が3割強と最も高く、次いで桜木・幌別地区が約3割、若草・新生地区が約2割となっている。

【私用で利用する場所(単一回答)】

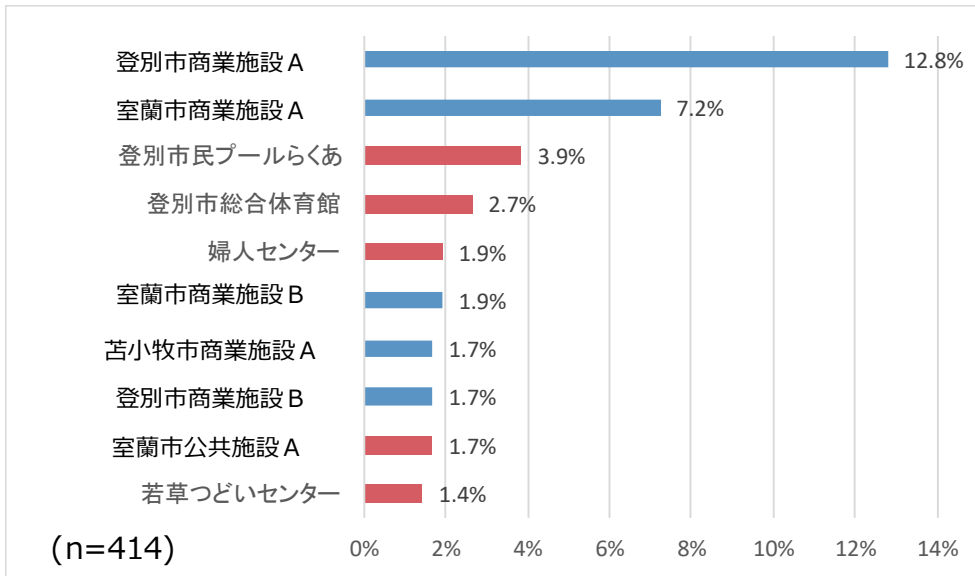


【私用で登別市内で利用する場所(単一回答)】

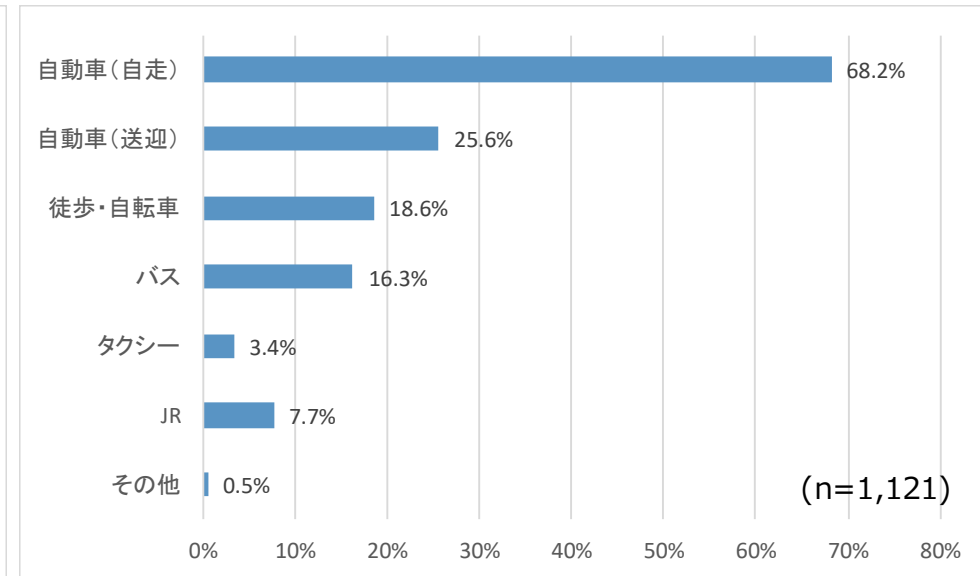


- よく利用する施設として、複合商業施設が多くなっており、特に登別市若山町にある商業施設の利用が多い状況である。商業施設をのぞくと、市民プール・体育館・婦人センターが比較的多い。
- 私用の交通手段としては自動車を自ら運転している割合が高く、約7割となっている。
- その他、徒歩・自転車、バス、JRの利用も買い物や通院と比較すると高くなっており、公共交通による支援の有効性が高いと考えられる。

【私用で利用する場所の詳細(自由記述)】

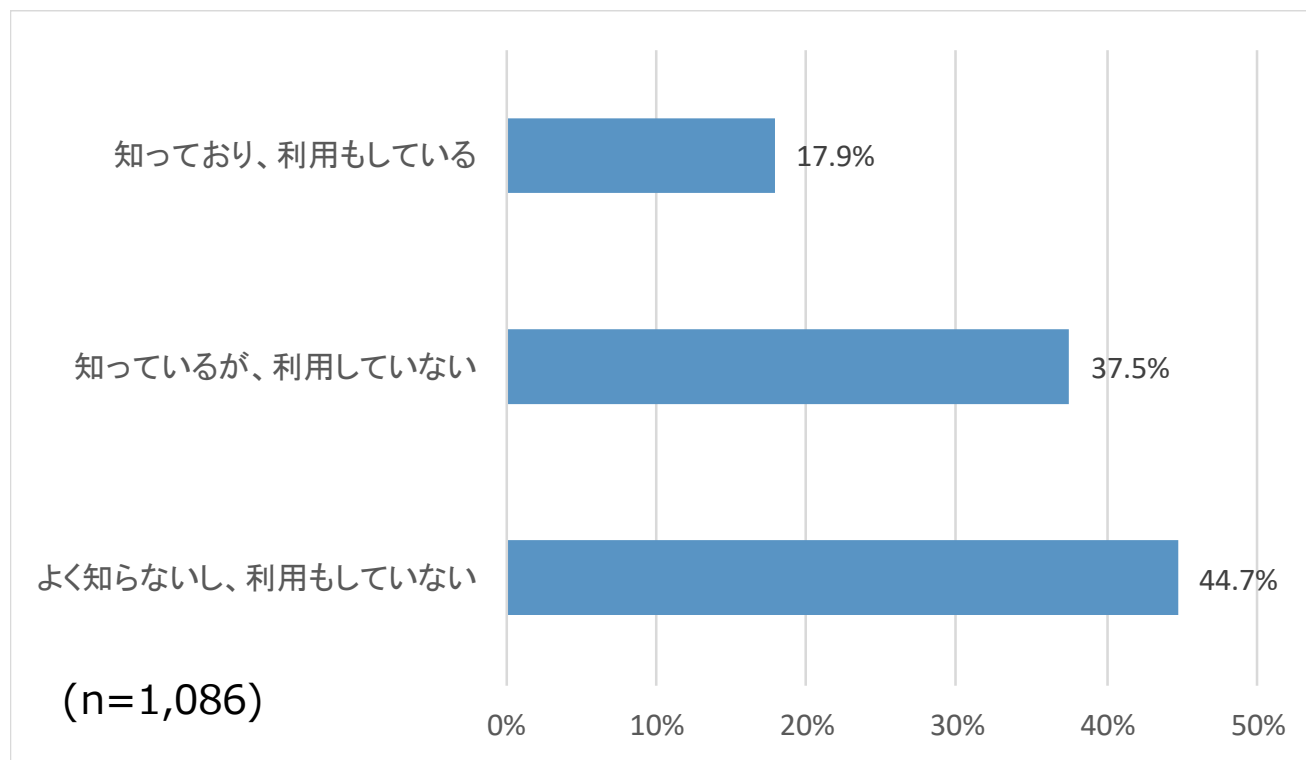


【私用の交通手段(複数回答)】



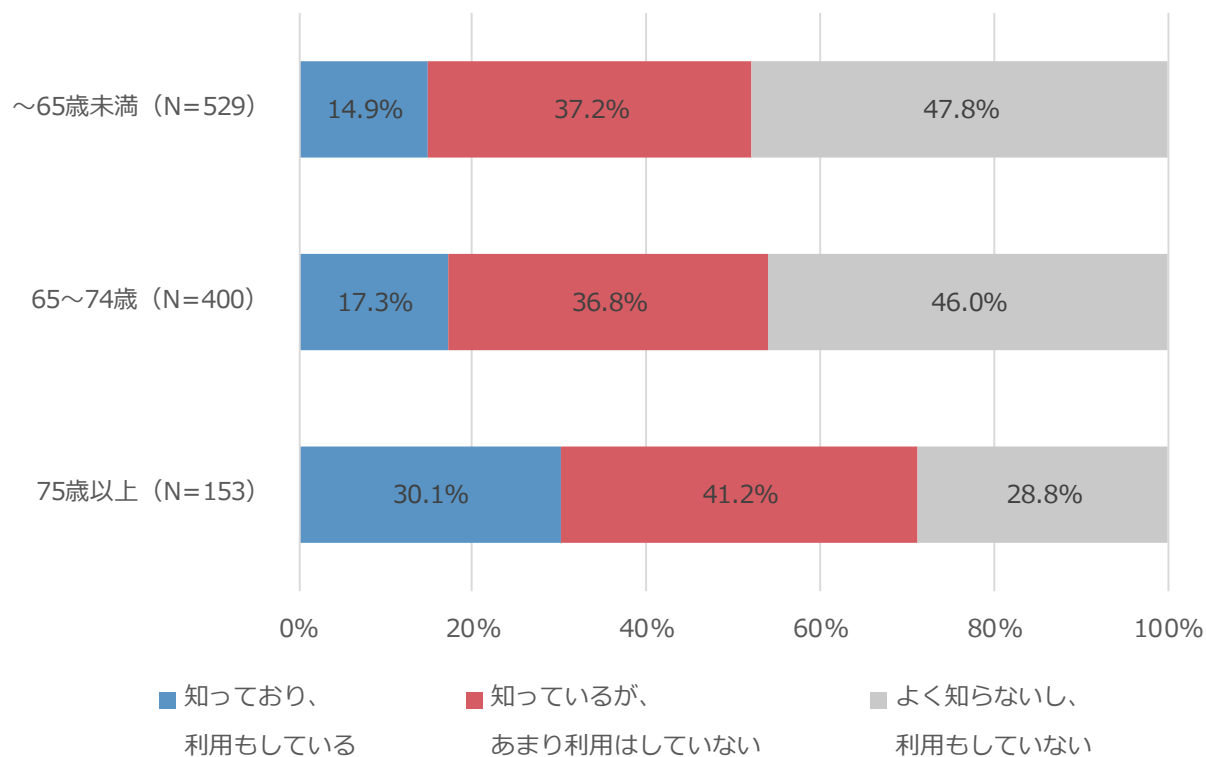
- 登別市内のバス路線や停留所の存在、バスの乗り方や運行情報などのバスサービスについて、「よく知らないし、利用もしていない」が4割強と最も高くなっている。

【登別市の路線バス(単一回答)】



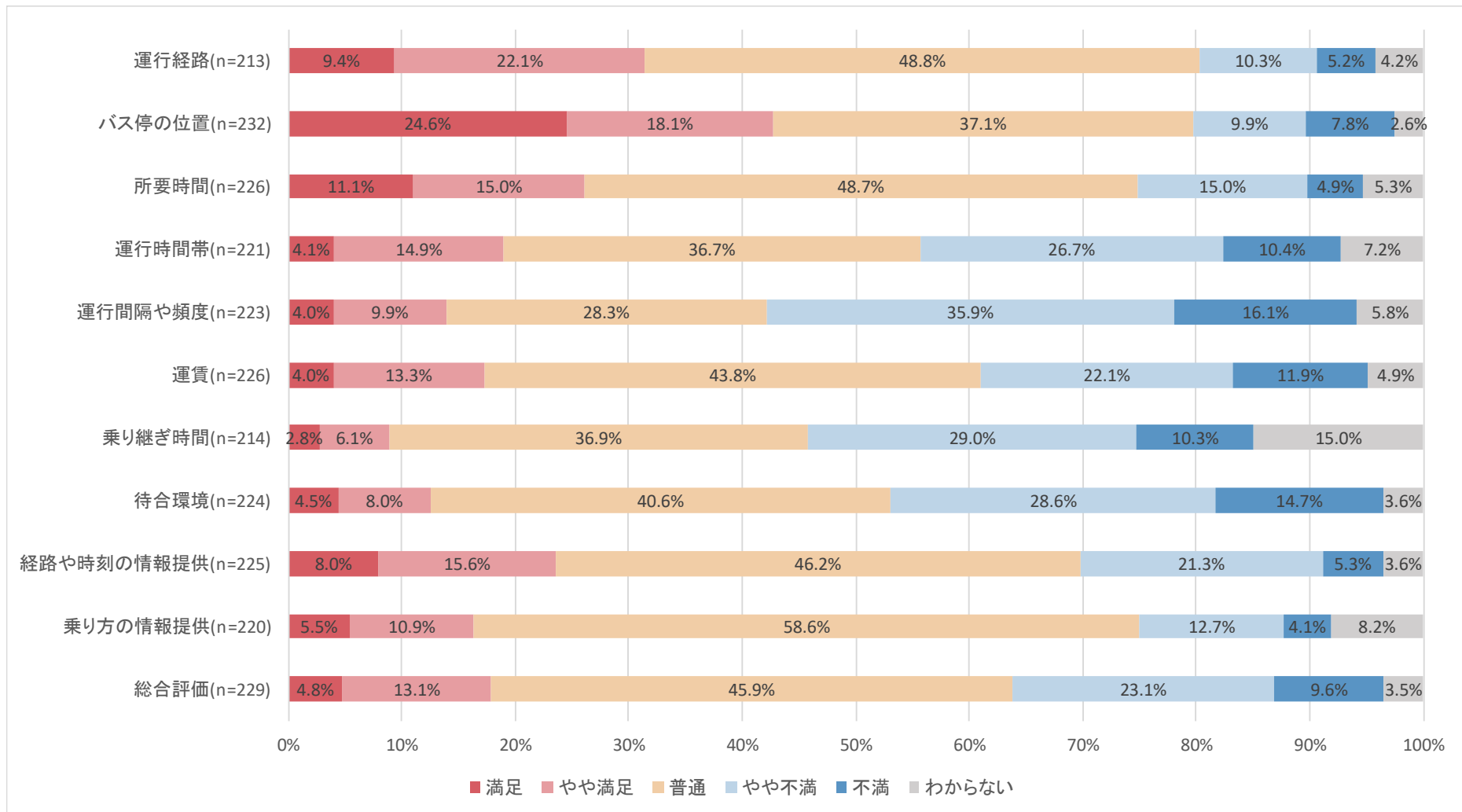
- 年代別にみると、75歳以上が認知度、利用状況ともに高くなっており、特に利用状況としては、3割強と大きく増加している。

【登別市の路線バス(単一回答)】



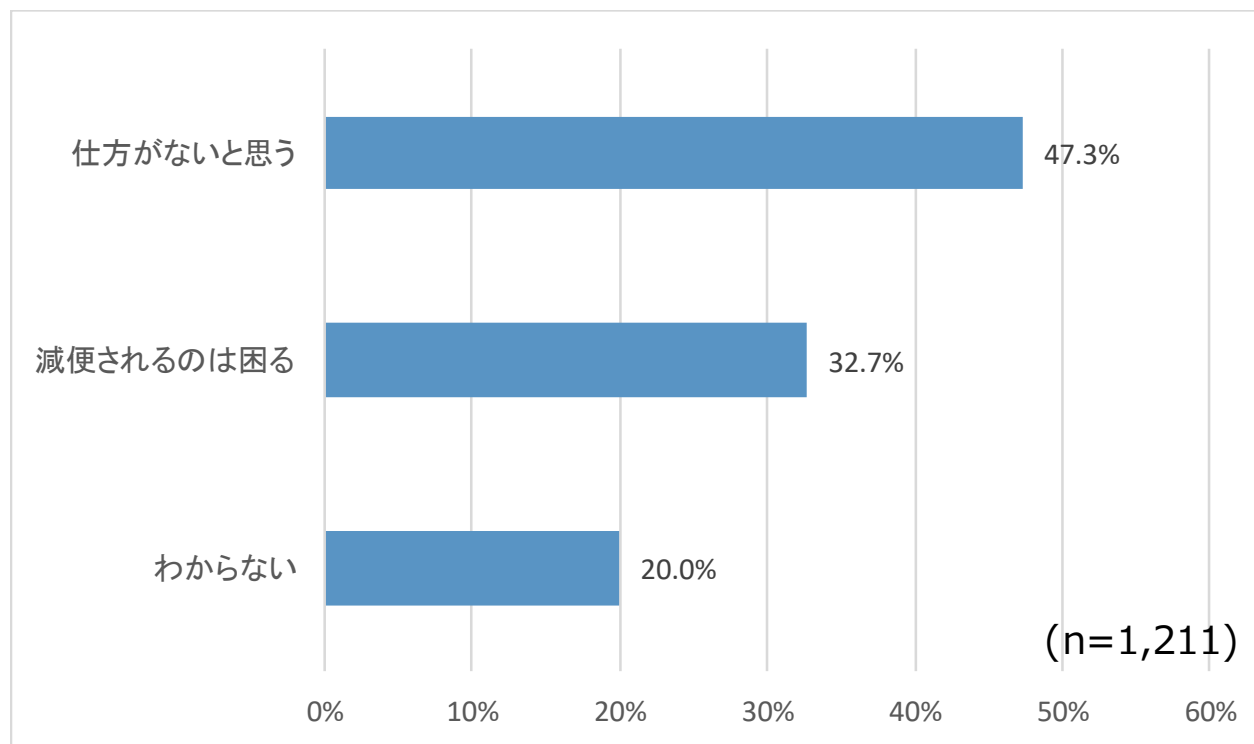
● 路線バスの現状の満足度は、「現状のバスに対する総合評価」では、6割強が不満を感じていない状況となっている。一方で「運行間隔や頻度」の不満が比較的高い。

【登別市の路線バスの現状の満足度(単一回答)】



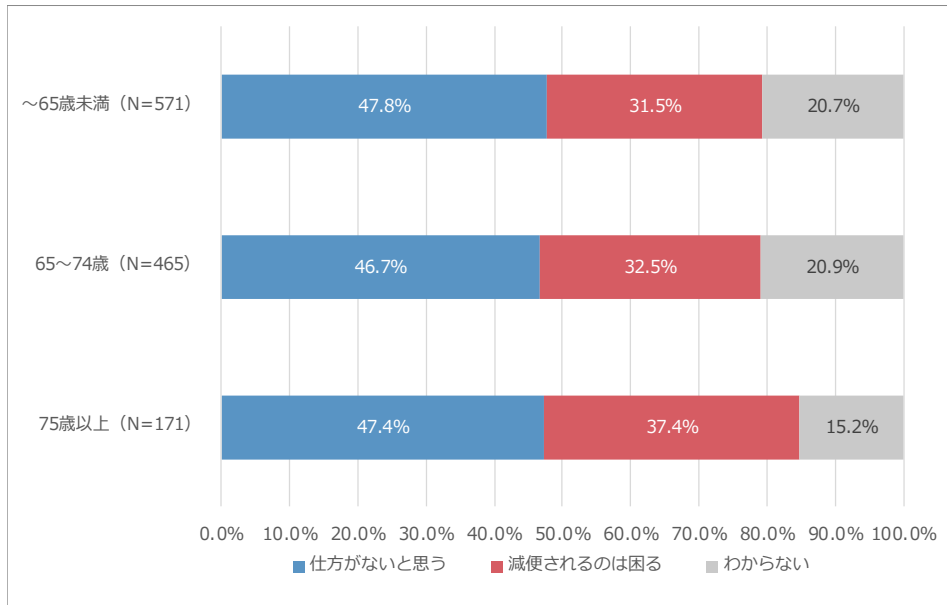
- 利用者の少ないバス路線について、減便・廃止の意向については、減便であれば「仕方がないと思う」が約5割となっている。

【減便への意向(単一回答)】

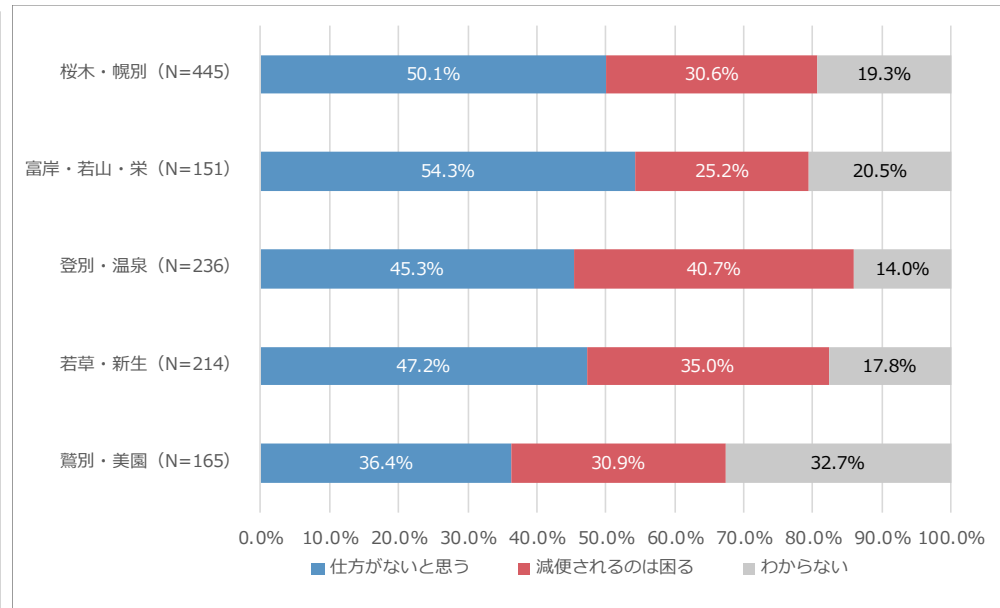


- 利用者の少ないバス路線について、減便・廃止の意向については、減便であれば「仕方がないと思う」が約5割となっている。
- 利用者の少ないバス路線について、地域別に分析した結果、「桜木・幌別」及び「富岸・若山・栄」において、過半数が「仕方がないと思う」と回答している。

【年代別減便への意向(単一回答)】

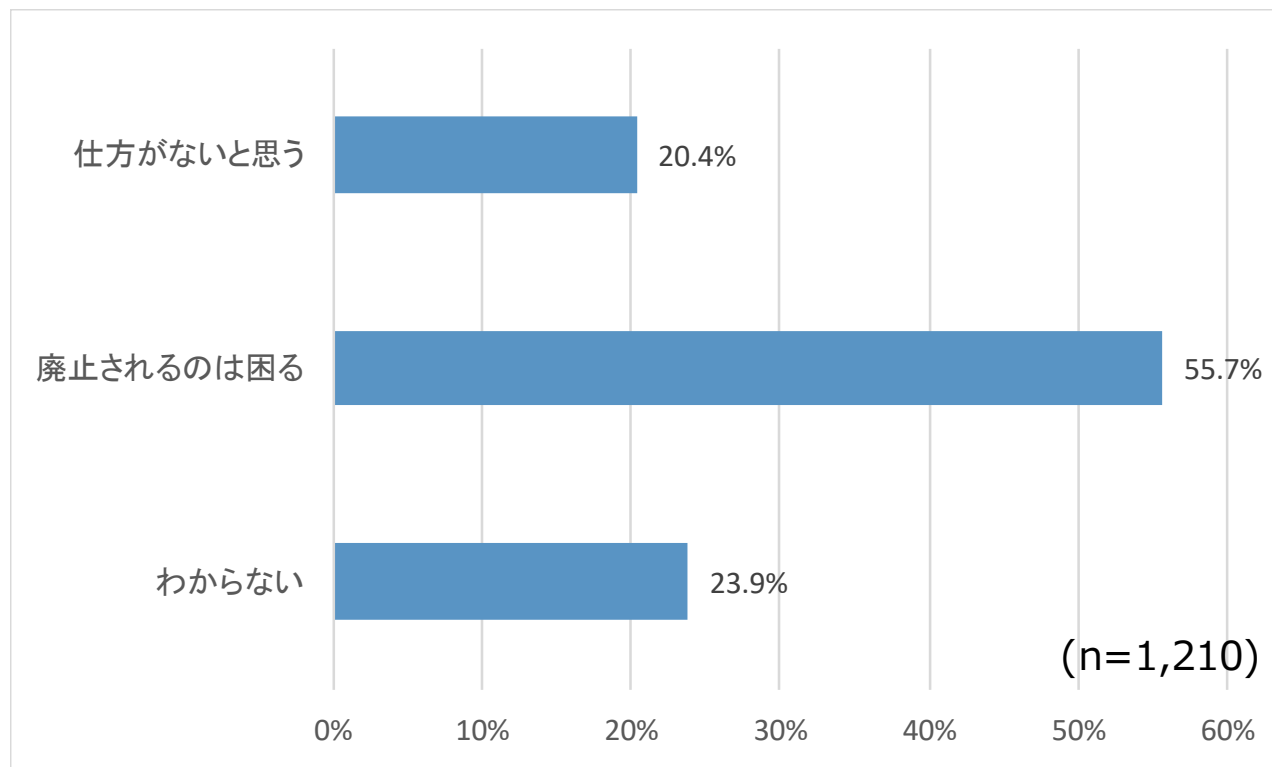


【地域別減便への意向(単一回答)】



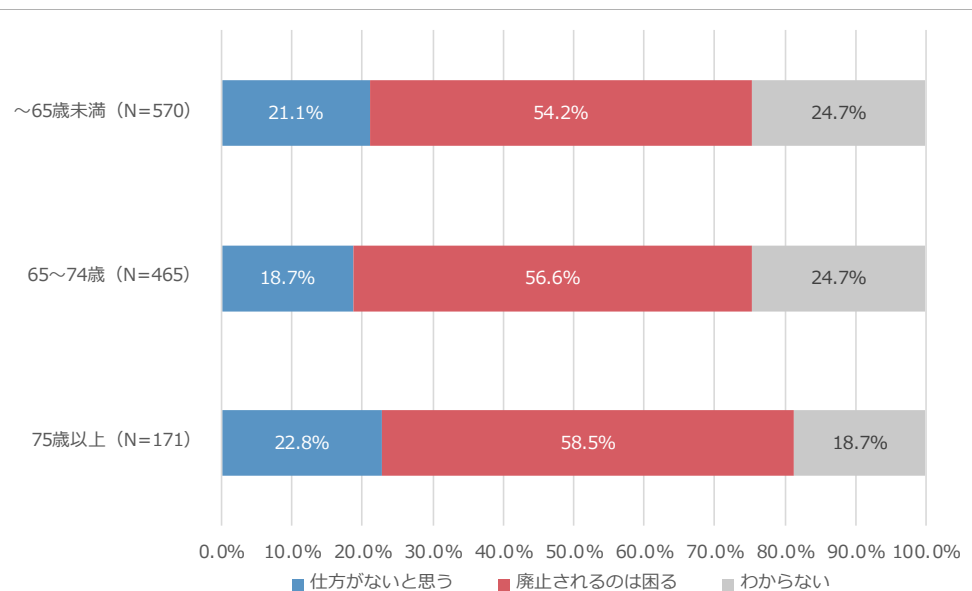
- 廃止に対しては過半数が「困る」と回答している一方、「仕方がない」についても2割となっており、実態を把握しながら減便・廃止も含めた検討が必要である。

【廃止への意向(単一回答)】

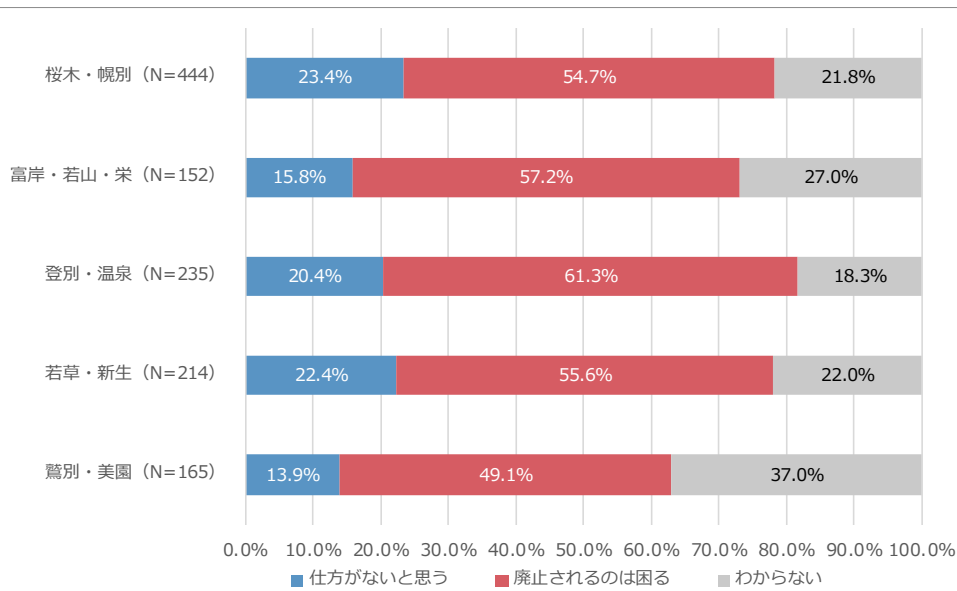


●年代別・地域別で分析した結果も「困る」との回答が多く、鷺別・美園を除くすべてが過半数を占めている。

【年代別廃止への意向(単一回答)】

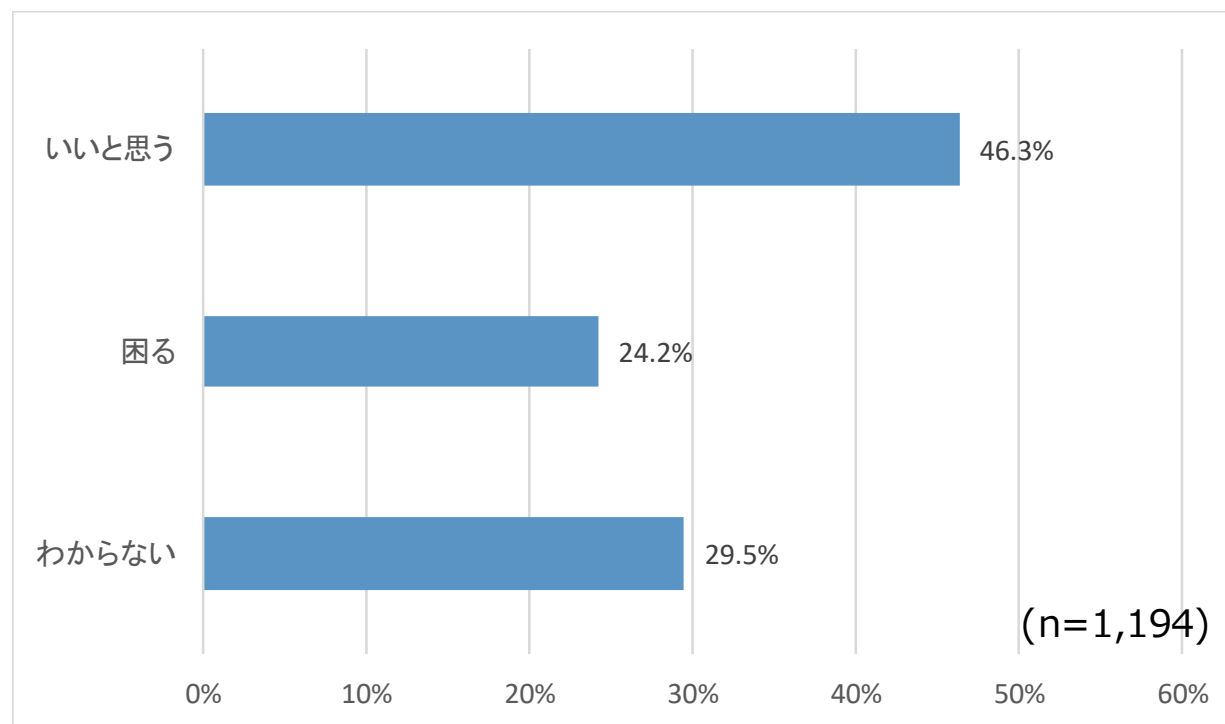


【地域別廃止への意向(単一回答)】



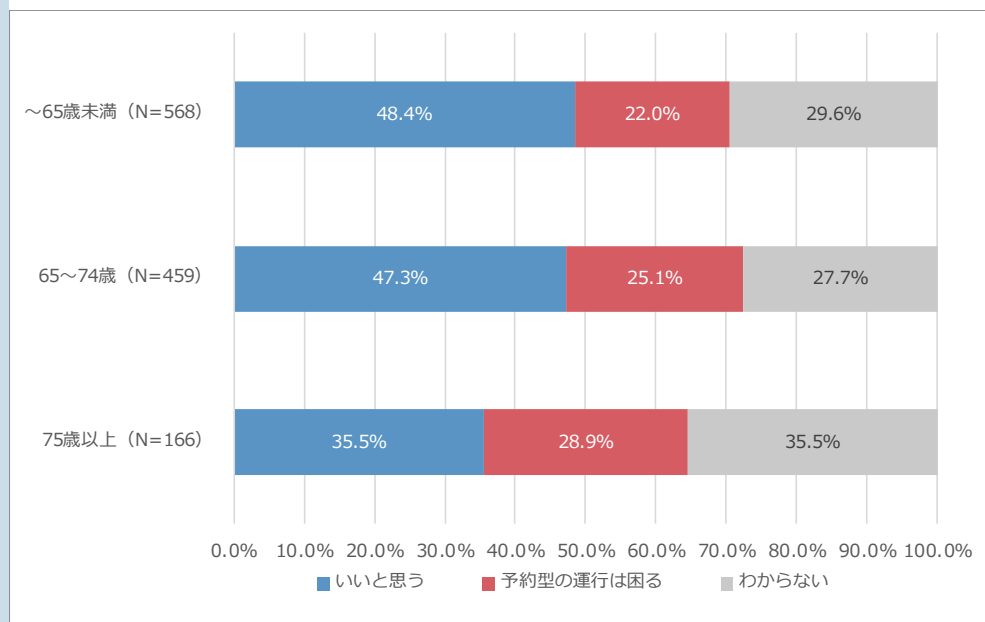
- 予約運行への意向としては、約5割が「いいと思う」と回答しているが、2割強は「困る」と回答しており、予約運行には検討が必要である。

【予約運行の意向(単一回答)】

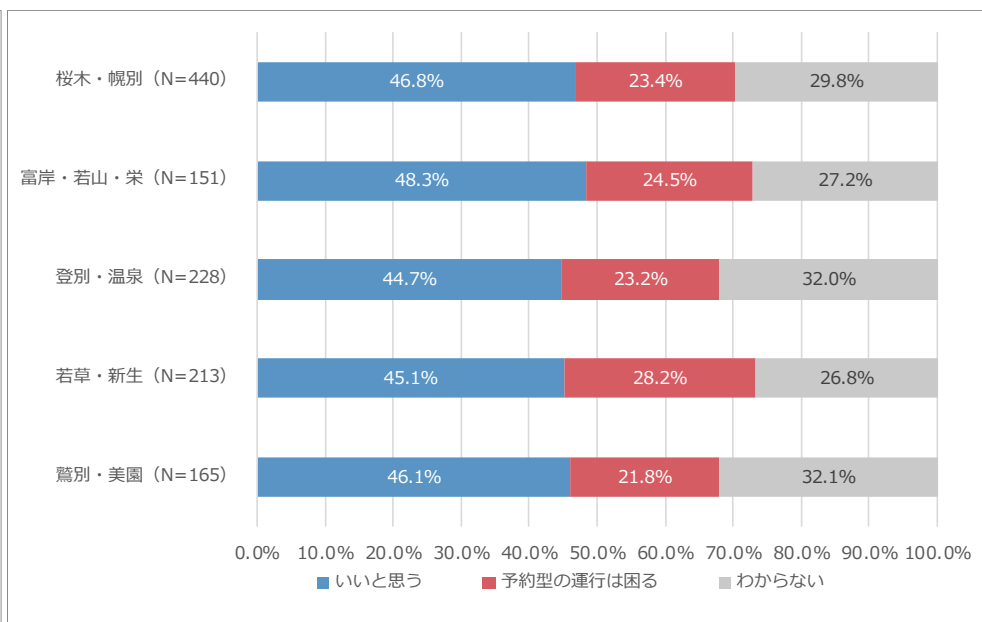


- 年代別に分析した結果、75歳以上の「いいと思う」割合が減り、「わからない」が多くなっている。
- 地域別には大きな傾向の変化はない。

【年代別予約運行の意向(単一回答)】

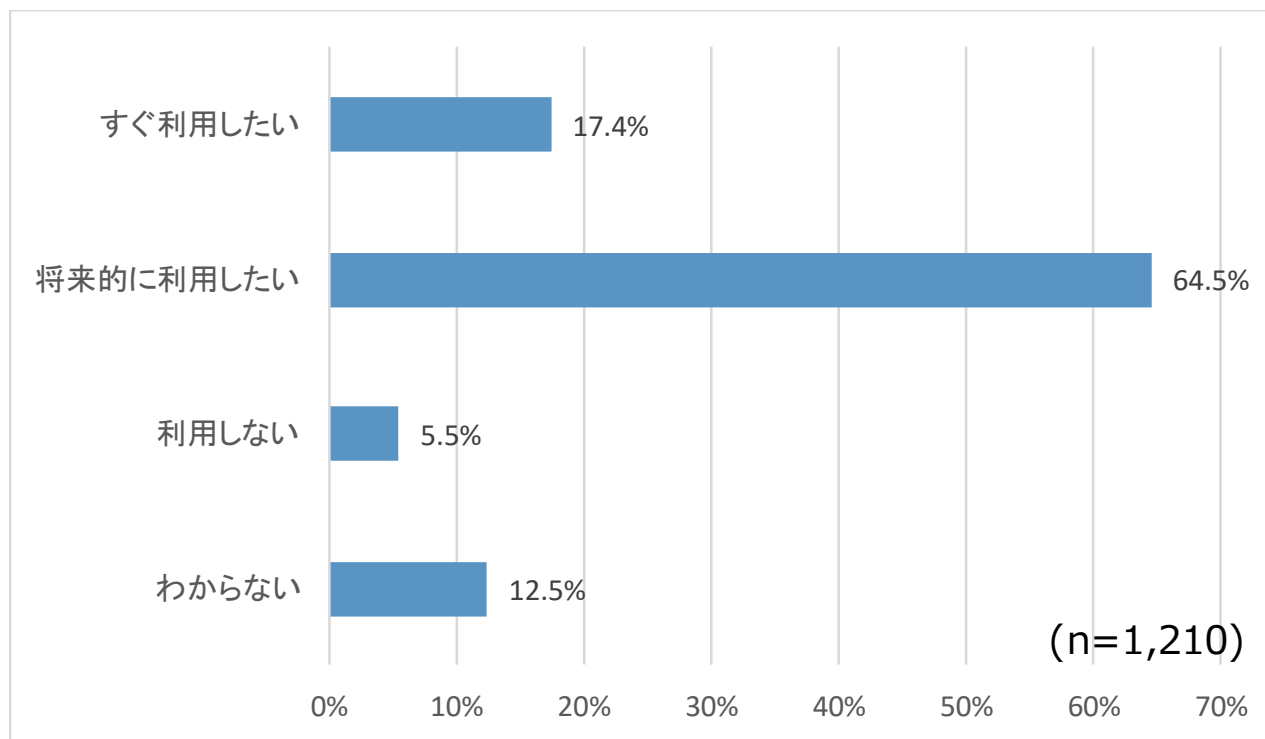


【地域別予約運行の意向(単一回答)】



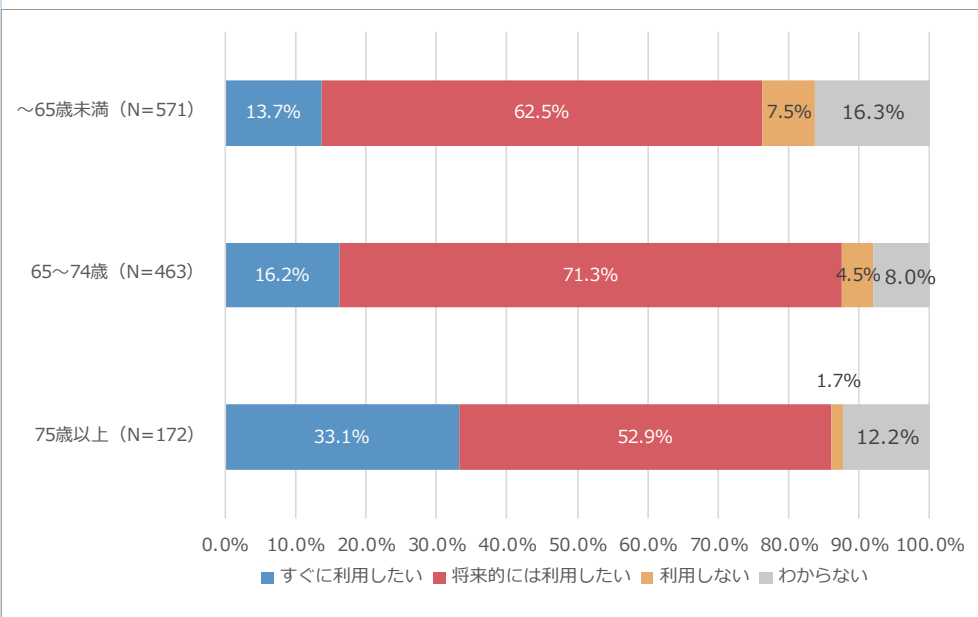
- コミュニティバス等のきめ細かい運行に対しては、「将来的に利用したい」が6割強となっており、迅速に対応する必要性は低いと考えられる。

【きめ細かい運行の意向(単一回答)】

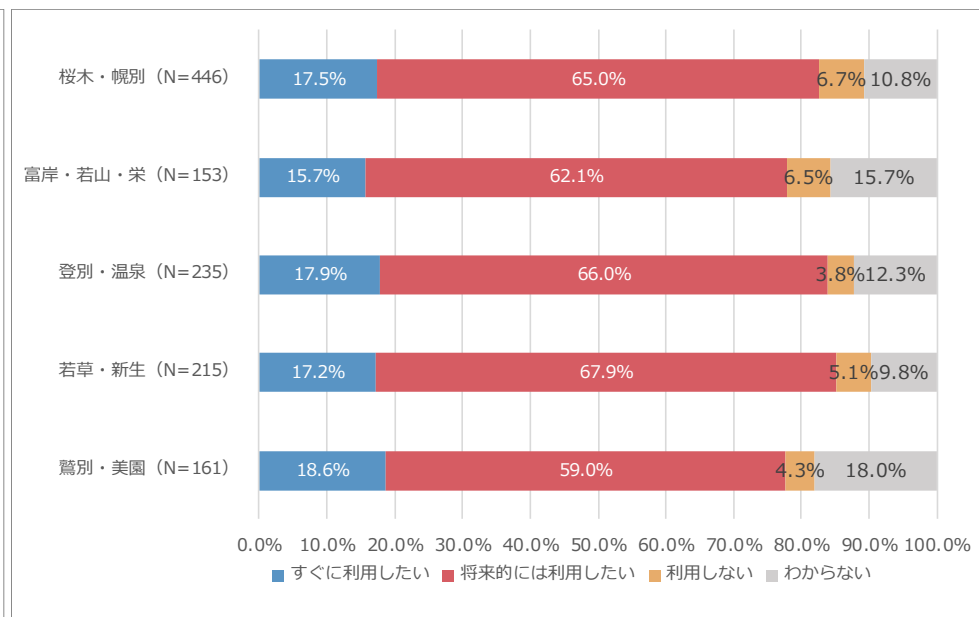


- 年代別に分析した結果、75歳以上では「すぐに利用したい」割合が増加しており、3割強となっており、高齢者に対するきめ細かな対応が重要である。
- 地域別には大きな傾向の違いは見られない。

【年代別きめ細かい運行の意向(単一回答)】

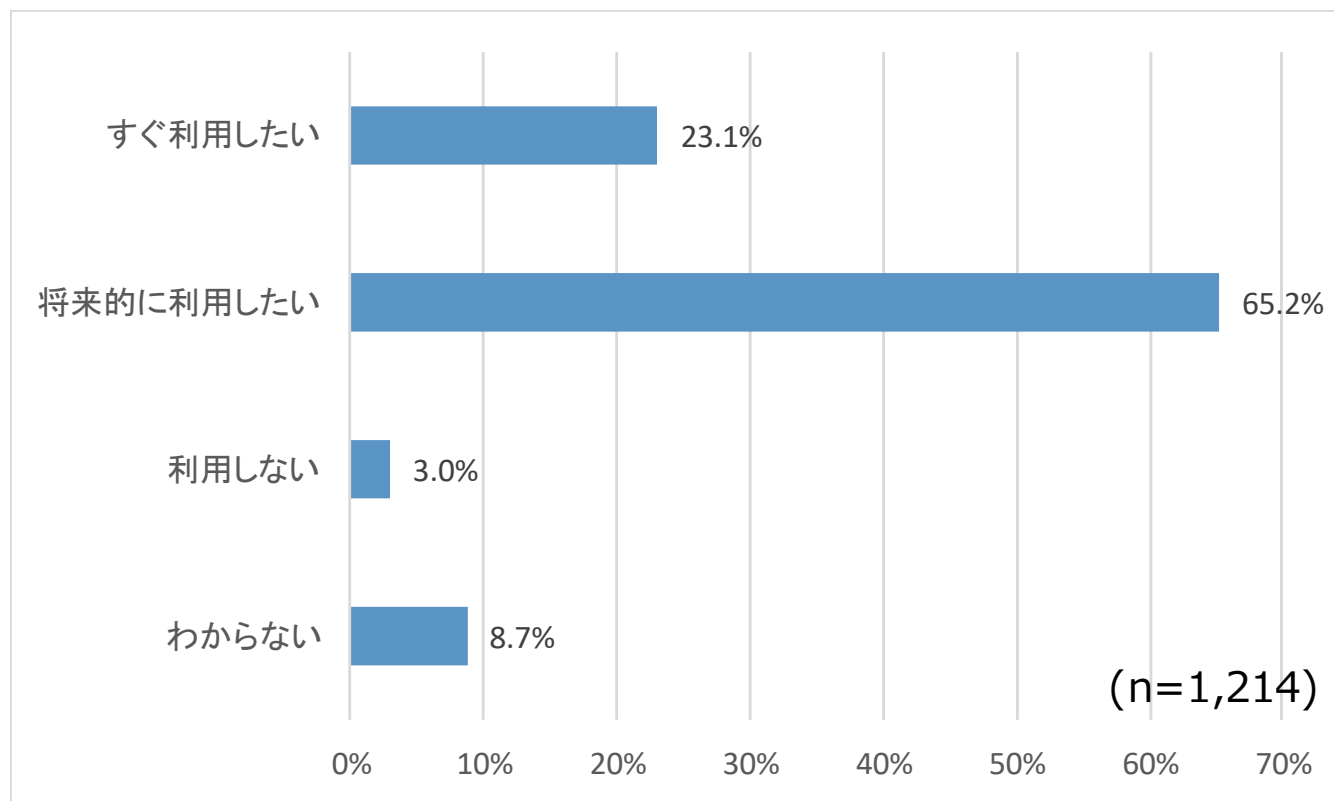


【地域別きめ細かい運行の意向(単一回答)】



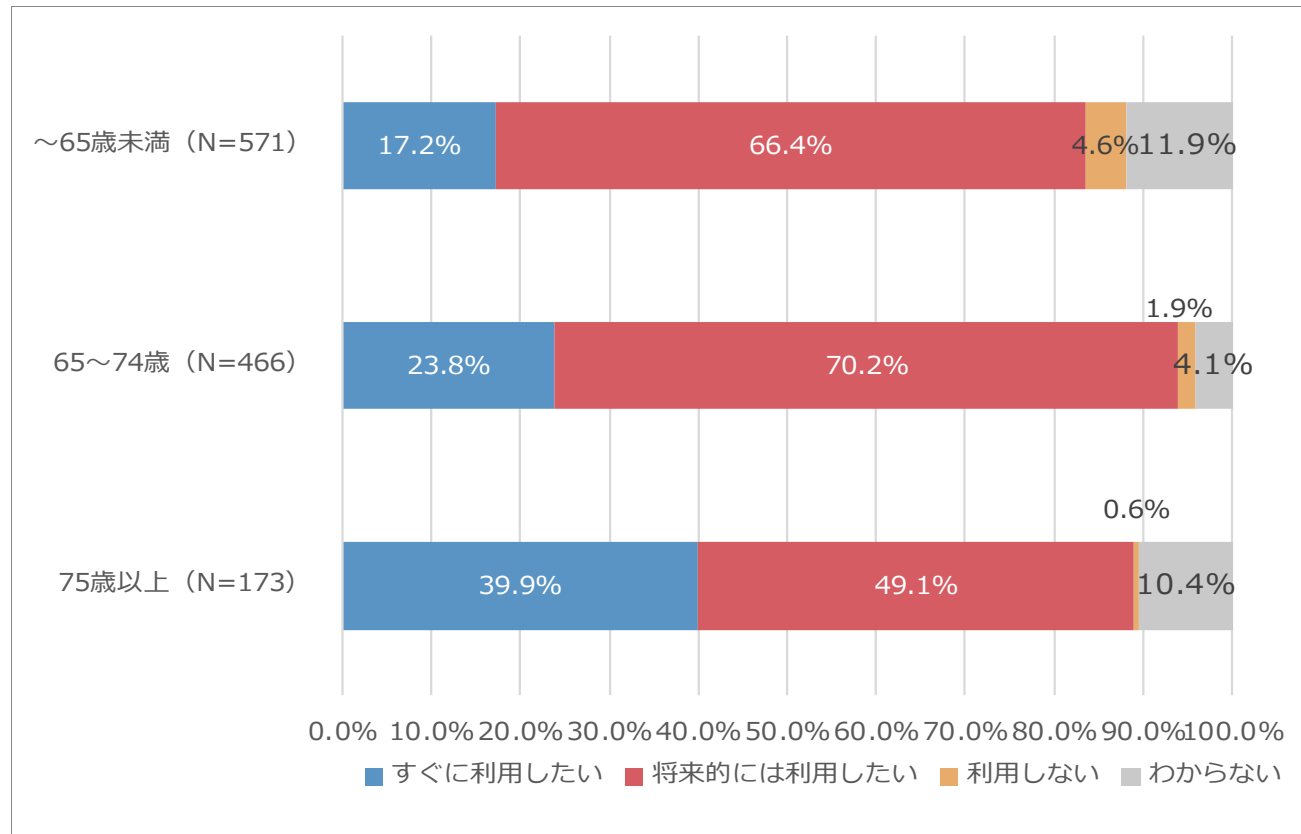
- バスやタクシーを利用する際の助成等を実施した場合の公共交通利用の意向として、「将来的に利用したい」が約7割となっており、将来を見据えた検討が必要である。

【運賃助成による変化(単一回答)】



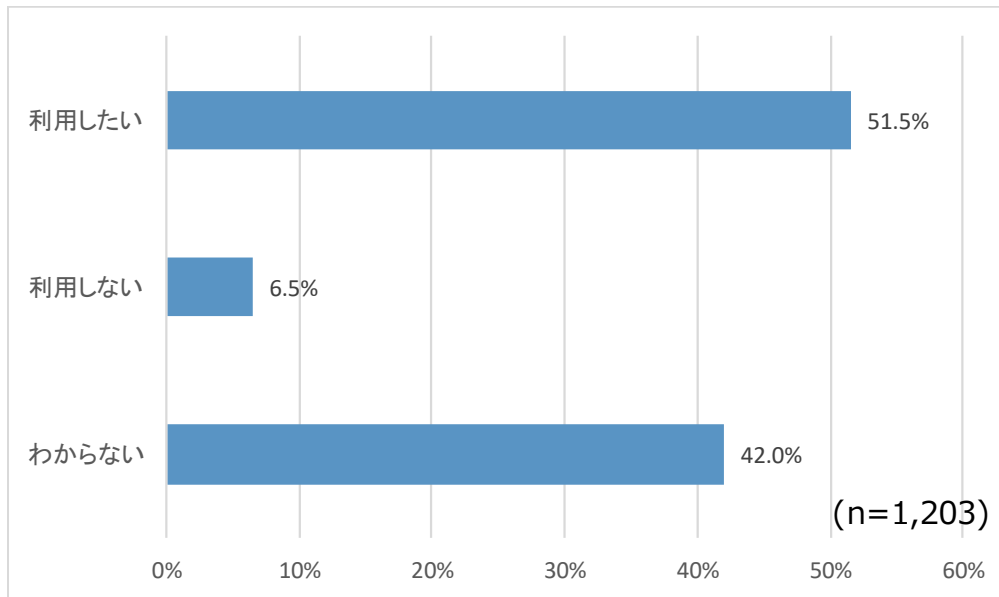
- 年代別に分析した結果は、75歳以上ですぐに利用したいと回答しており、高齢者に向けた支援の重要性がうかがえる。

【年代別運賃助成による変化(単一回答)】

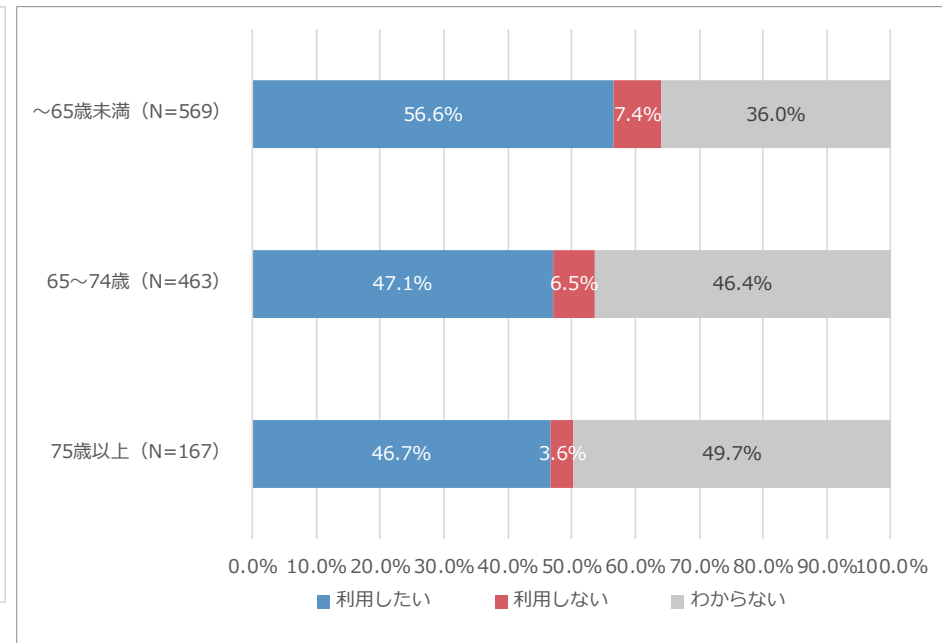


- バスロケーションシステム（バスロケ）の導入による利用の変化としては、「利用したい」が過半数を占めている。
- 年代別に分析した結果、年齢が高くなるに従い、利用意向が低下し、「わからない」が増加している。

【バスロケ導入による変化(単一回答)】

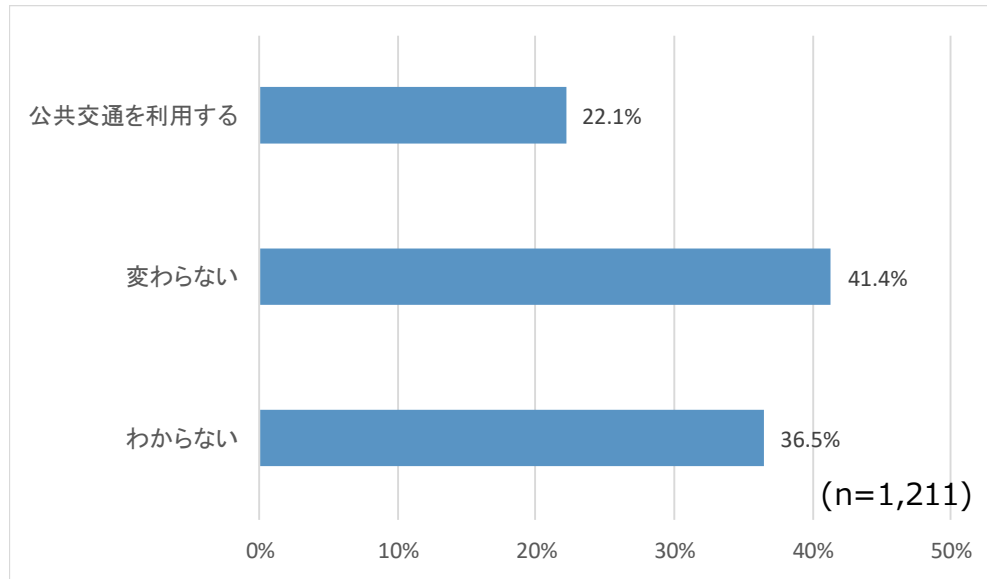


【年代別バスロケ導入による変化(単一回)】

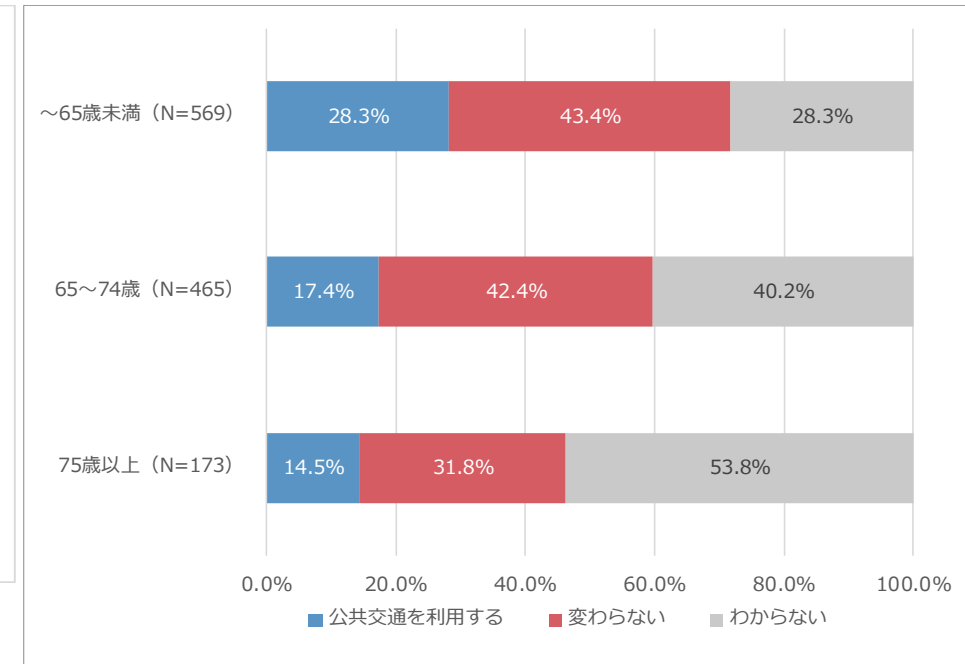


- スマートフォン等による決済や予約等が可能なアプリを導入した場合の公共交通利用の変化については、4割強が「変わらない」と回答しているものの、2割が「利用する」と回答しており、支援体制の構築が必要である。
- 一方で、年代別に分析した結果、年齢が高くなるに従い利用意向が低下し、特に「わからない」が増加している。

【アプリ導入の効果(単一回答)】

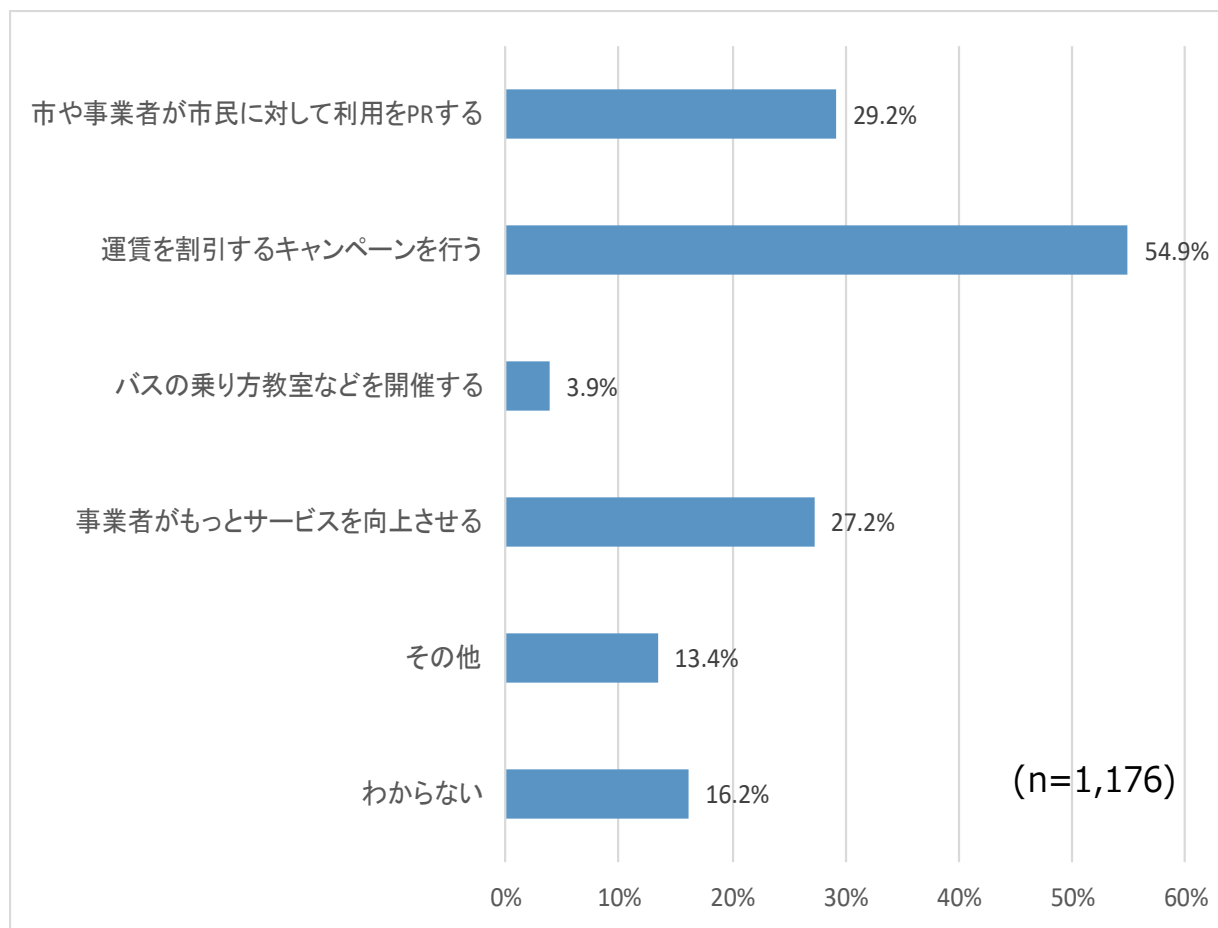


【年代別アプリ導入の効果(単一回答)】



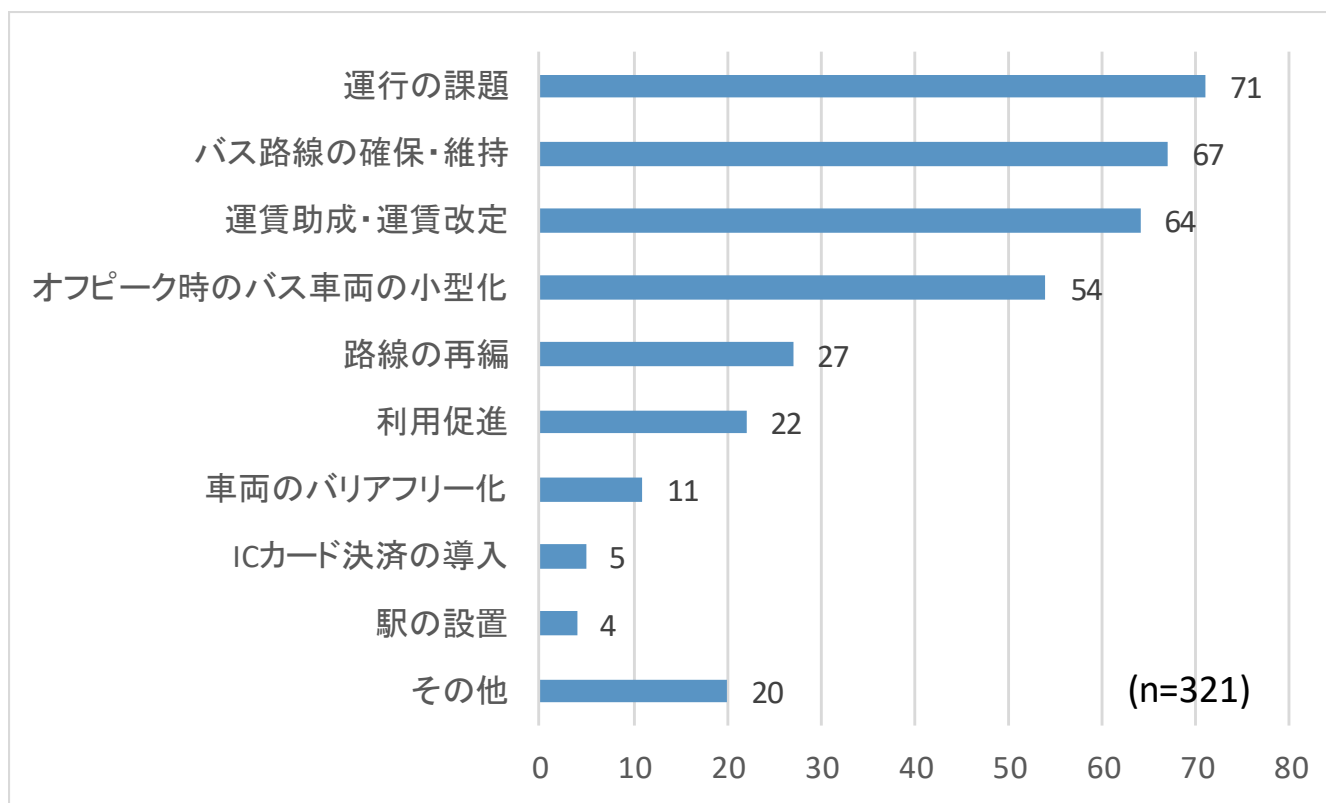
- 今後必要な公共交通の取り組みとして、「運賃を割引するキャンペーンを行う」が5割強となっている。次いで、「市や事業者が市民に対して利用をPRする」、「事業者がもっとサービスを向上させる」が高くなっている。

【今後必要な取り組み(複数回答)】



- 自由記述をもとに項目分けした結果、運転手の対応や運行の遅れ、バス待ち環境の改善など運行に関する全般的な課題が最も多くなっている。また、利用者が少ない中で今後のために維持して欲しいなどのバス路線の確保・維持や運賃に関わる施策の導入、車両の小型化といった意見が多く見受けられた。

【今後の公共交通のあり方(自由記述)】



【個人属性】

- 回答者の5割強が高齢者となっており、7割強が自分で運転できる状況である。
- 免許返納に対する意向は5割弱が「検討中」としている。年齢が高くなるにつれて、免許返納の意向が高まっている。
- 一方で、80歳まで運転を続ける意向が2割強となっている。

【ウポポイについて】

- ウポポイを知っているが9割強となっている。
- 訪問意向は「行く予定である」「行く予定はない」「わからない」が3分割である。
- 移動手段は「自動車（自走・送迎）」の割合が高くなっている。

【生活行動：買い物について】

- 頻度は、「週1～2回」が約5割となっている。
- 買い物時間帯は10時台がピーク、滞在時間は1時間以内で8割強である。
- 9割が市内で買い物しており、自動車（自走・送迎）の割合が高い。

【生活行動：医療について】

- 頻度は、「めったいに利用しない」が過半数を占めている。
- 通院時間帯は9時台・10時台が多く、30分～1時間の滞在が4割強である。
- 5割強が市内で通院しており、6割が自動車（自走）となっている。

【生活行動：私用交通について】

- 外出時に困っていることは、7割強が「困っていない」と回答している。
- 移動手段は多くは自動車（自走・送迎）であるが、16%はバスを利用している。

【路線バスについて】

- 認知度は「良く知らないし、利用もしていない」が約5割となっている。が、年齢が高くなると認知度は向上している。
- 満足度は総合評価として、6割強が不満を感じていない。個別には「バス停の位置」が満足度が高い一方、「運行間隔や頻度」の不満が高くなっている。

【路線バスに対する考え方】

- 減便は「仕方がない」が約5割、廃止は「困る」が約6割となっている。
- 予約運行に対しては約5割が「いいと思う」と回答している。
- コミュニティバスの利用については、6割強が「将来に利用したい」と回答している。
- 運賃助成による利用は6割強が「将来に利用したい」と回答している。
- バスロケの導入は5割強が「利用したい」と回答している一方、4割強が「わからない」と回答している。
- 決済や予約が可能なアプリの導入に対しては、変わらないが4割強と最も高いが、2割が公共交通を利用すると回答している。
- 今後の必要な取り組みとしては、「運賃割引」が5割強となっている。